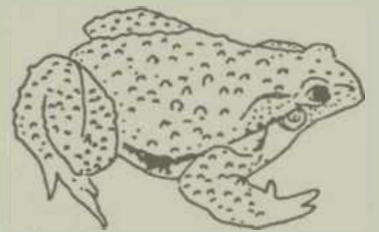
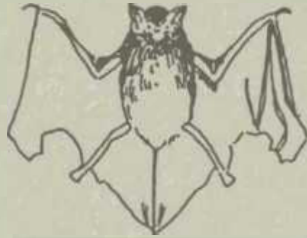


すぎなみの生き物たち 2

(すぎなみの生き物アンケート調査結果のまとめ)

杉並区環境部環境保全課



はじめに

杉並区ではこれまでに区内の自然環境を知る手がかりとして、区民のみなさんの協力を得てアンケート調査を行ってきました。第1回調査は昭和60・61年度に実施し、第2回はそれから5年後の平成2・3年度に行いました。今回（第3回）の調査はさらに5年後の平成7・8年度に行ったものです。

調査を開始してから10年が経過しますが、杉並区内の動植物はどのように変化してきているのでしょうか？この冊子は、今回のアンケート結果と、これまでに集められた貴重な資料をもとに現在の「すぎなみの生き物たち」をまとめたものです。

なお、これまでに杉並区で実施されたアンケート調査は以下に示すとおりです。

杉並区で行われたアンケート調査の項目および内容

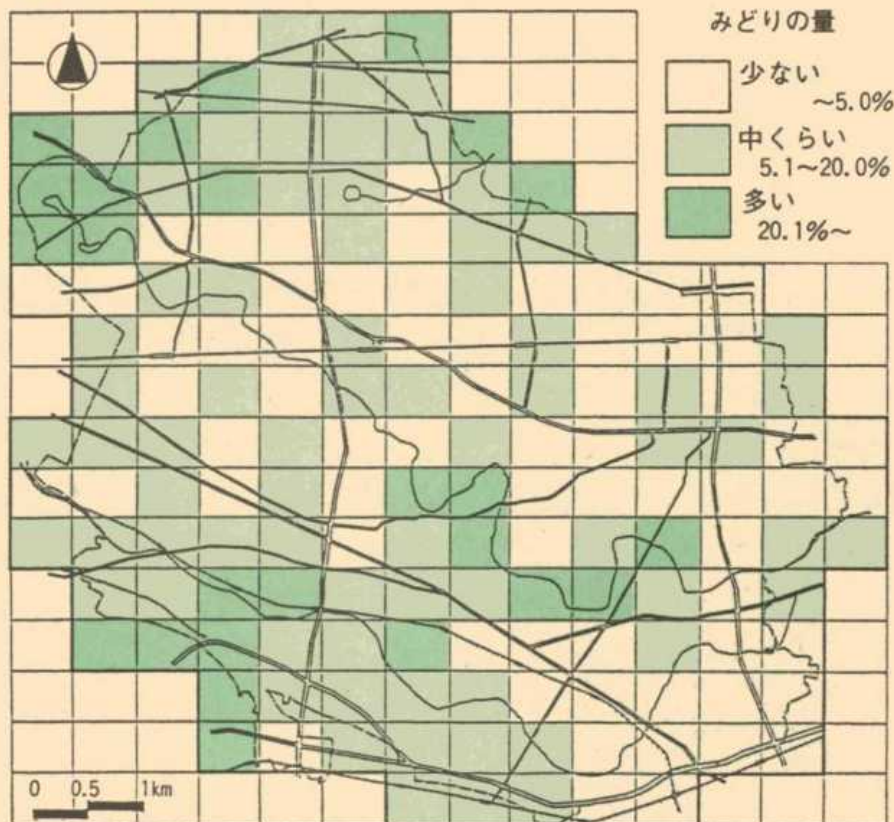
項目	内容	これまでの実施年度				本年度		
		第1回		第2回		第3回		
		昭和		平成		平成		
		60年度	61年度	2年度	3年度	7年度	8年度	
植 物	春の野草	○		○	○	●	●	
	夏の野草	○		○	○	●	●	
	秋の野草	○		○	○	●	●	
動 物	オニグモ・ジョロウグモ	○		○	○	●	●	
	セミのぬけがらしらべ	○		○	○	●	●	
	夏の昆虫					●	●	
	秋の昆虫					●	●	
	餌台にくる鳥	○		○	○	●	●	
	鳥の食性調査	○				●	●	
	鳥の集団ねぐら	○		○	○	●	●	
	冬の野鳥	○		○	○	●	●	
	冬の水鳥					●	●	
	ツバメの巣しらべ	○		○	○	●	●	
	小動物	(両生類)		○	○	○	●	●
		(は虫類)		○	○	○	●	●
		(ほ乳類)		○	○	○	●	●

杉並区のみどりについて

アンケートで調べた生き物が、どのような場所にみられるのかを知るために、アンケート調査で使われているメッシュの中のみどりの量を調べました。みどりの量は、「平成4年度 杉並区緑化基本調査」の緑被率（樹木率+草地率）をもとにしました。

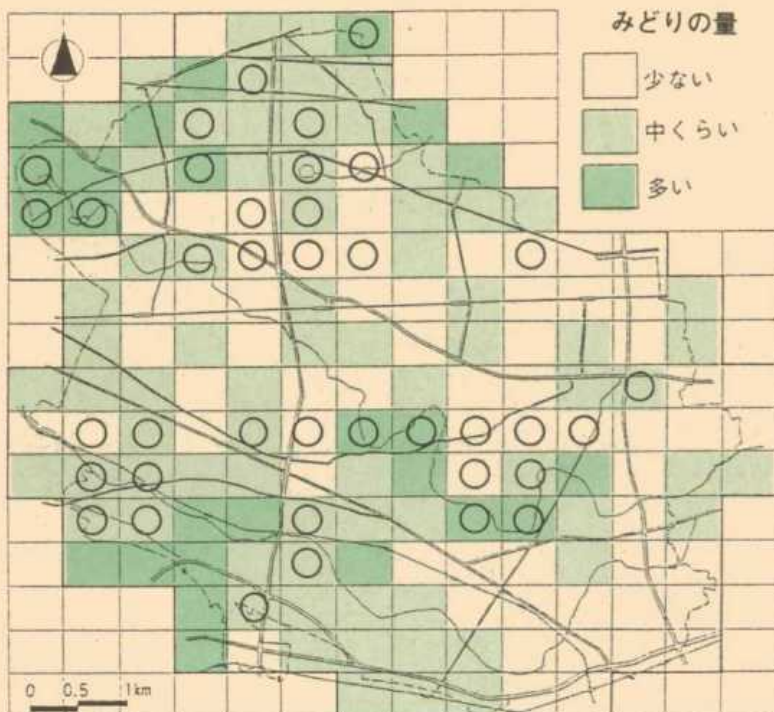
ここではそのうち緑被率が61%以上の土地をみどりが多い環境と考え、この環境がひとつのメッシュの中でどれくらいの割合を占めるかをみました。そして、その割合によってみどりの量が少ない（～5.0%）、中くらい（5.1～20.0%）、多い（20.1%～）の3つに色分けしました。

■みどりの量のメッシュ



このアンケート集には下図に示したようなメッシュがたくさん出てきます。この例の場合、植物の種類数が多かったメッシュに○印をふっていますが、みどりの量に対して生き物が区内のどこの地域に分布していたかがわかることと思います。

(例) 植物の種類数が多かったところ

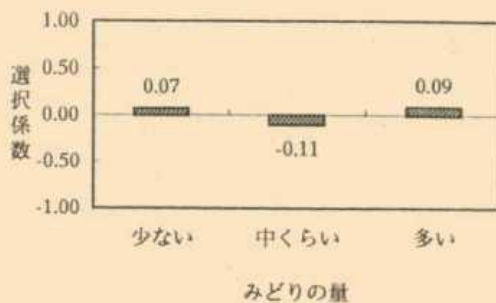


*** グラフのみかた**

生き物のメッシュ図とあわせて示したみどりの量と生き物の分布のグラフは、その生き物がみどりの量とどういった関係をもっているかを示したものです。グラフの棒は、その環境を好むときは上に出て、好む度合いが強いほど棒が長くなり、最高で1となります。反対にその環境を好まないときは下に出て、最低は-1となります。下のグラフを例にすると、左のグラフはみどりの「多い」ところで棒が上に長くなっていますので、みどりの多いところを好む種類となります。反対に、みどりの「少ない」ところで棒が上に長くなると、みどりの量の少ないところを好む種類となります。

また、右のグラフは0のところまで一直線になっていますが、この場合はみどりの量に関係なくみられる種類といえます。確認されたメッシュが全域にわたり、分布に偏りがみられないとこのようなグラフになります。

なお、解析の結果、生き物とみどりの量の関係がみられない右のグラフは、今回のアンケート集では省略しました。



アンケート調査結果から

植 物

第1次（昭和60・61年度）、第2次（平成2・3年度）および第3次（平成7・8年度）にわたる「杉並区自然環境調査」では、延べ153科1284種の高等植物が確認されています。これらのなかにはコハナヤスリ、ホタルブクロ、イカリソウ、シュンラン、キンラン、エビネ、カタクリ、ヤマホトトギスなど区内では限られた地域にしかみられない植物も含まれています。

ここではアンケート調査として行った「春の野草」60種、「夏の野草」59種、「秋の野草」52種、延べ70種のうち代表的な種類についてみていきます。

■アンケート調査対象植物

植物名	春	夏	秋
アキノエノコログサ		H7	●
アキノノゲシ			●
イタドリ	●	●	H7
イヌガラシ	●	H7	
イヌタデ	H7	●	●
イヌビエ		H8	●
イヌムギ	●	H8	
イノコズチ	●	●	●
ウシハコベ	●	●	
エノキグサ		●	●
エノコログサ	H7	●	●
オオアレチノギク	H7	●	●
オオイヌノフグリ	●		
オオバコ	●	●	H7
オニタビラコ	●	●	H7
オヒシバ		H7	●
オランダミミナグサ	●	H8	
カタバミ	●	●	●
カナムグラ	H7	●	●
カモジグサ	●	●	
カヤツリグサ	●	●	●
カラスウリ	●	●	●
カラスノエンドウ	●	H7	
カントウタンポポ	●		
ギシギシ	●	●	●
クワクサ	H7	H7	●
コニシキソウ		H7	H7
コヒルガオ	●	●	●
ジュズダマ	H7	●	●
ショカツサイ	●	H7	
シロザ	●	●	●
シロツメクサ	●	●	H7
スギナ	●	●	●
スズメノカタビラ	●	●	H7
スベリヒユ	●	●	●

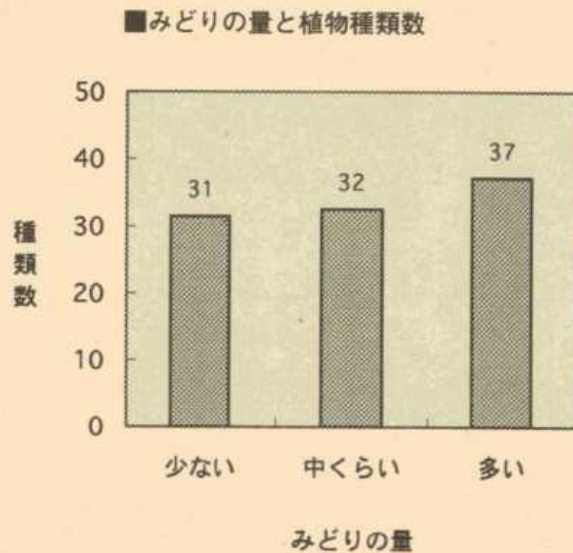
植物名	春	夏	秋
セイヨウタンポポ	●		
タケニグサ	●	●	●
タチイヌノフグリ	●		
タチツボスミレ	●	H7	
タネツケバナ	●	●	H7
チドメグサ	●	●	H7
ツメクサ	●	●	
ツユクサ	●	●	●
トキワハゼ	●	●	H7
ドクダミ	●	●	●
ナズナ	●		
ノアザミ		●	
ノハラアザミ			●
ハキダメギク	●	●	●
ハコベ	●		●
ハハコグサ	●	●	●
ハルジオン	●	H8	
ヒガンバナ			●
ヒメオドリコソウ	H8		H8
ヒメジョオン	●	●	H7
ブタクサ	●	●	●
ヘクソカズラ	H7	●	●
ヘビイチゴ	●	●	H7
ホタルブクロ	●	●	
ミズヒキ	●	●	●
ミチヤナギ	H7	●	H7
ミドリハコベ	●		
ムラサキカタバミ	●	●	H7
メヒシバ		●	●
ヤエムグラ	●	●	H7
ヤブガラシ	●	●	●
ヤマノイモ	H7	●	●
ヨウシュヤマゴボウ	H7	●	●
ヨメナ	●	H8	●
ヨモギ	●	●	●
合計	60	59	52

注) 調査は原則的に平成7、8年の2年間で行っているが、H7、H8はそれぞれの単年度の調査を示す。

植物の種類数

植物に関するアンケートの調査用紙には、前回（第1回、第2回）までの調査結果も踏まえ、どこにでも生育し、目につきやすい植物を例示として挙げ、回答をお願いしましたが、区内の北西部や南西部、善福寺川沿いの中央部など、みどりの多いメッシュには、例示した以外にも様々な種類の植物がみられるようです。しかし、みどりの量が少ないメッシュでも、種類数の多かった場所もあります。そういった場所の大部分は、メッシュの中に公園、神社、お寺などの緑地がありました。

下の棒グラフはみどりの量に対して確認された植物の種類数を表したものです。これをみるとみどりの量が多いところからは37種の分布が確認されましたが、みどりの量が中くらいのところや少ないところでもそれぞれ、32種、31種と比較的多くの種類が確認されています（重複種は除いた）。



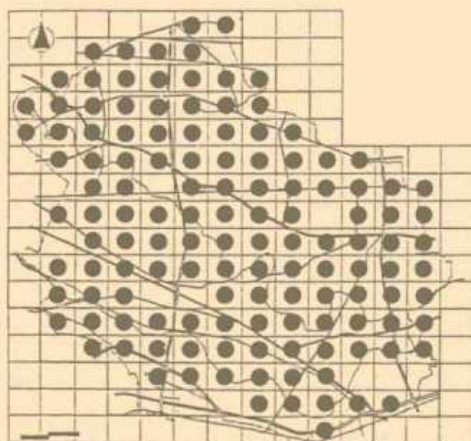
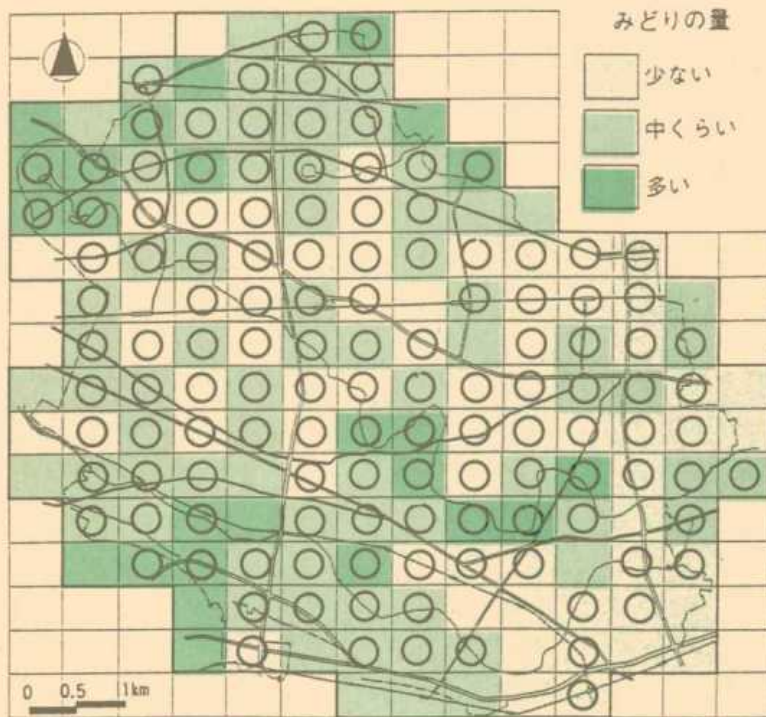
代表的な野草

アンケートで報告のあった植物のうち、特徴のある環境に広くみられる野草、「杉並区自然環境調査—第3次—」(平成7・8年度)において注目種とされている植物、もともと日本には分布していなかった帰化植物、そして春、夏、秋にみられた種類の中から、代表的な植物を選んでみました。

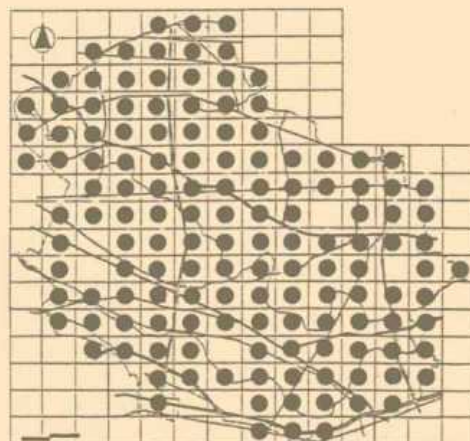
特徴のある環境に広くみられる野草

○オオバコ

未舗装の道路上やグラウンドなどいつも人に踏みつけられるような場所にみられ、樹林の中など踏みつけの少ないところにはみられません。区内ではほぼ全域にみられ、これまでの調査結果と比べても大きな変化はありません。また、分布図をみてもわかるように、みどりの量とは関係なく分布しています。



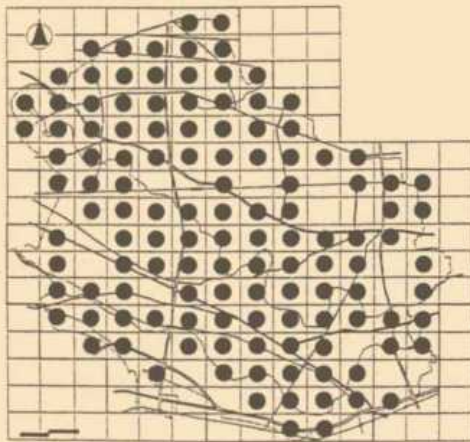
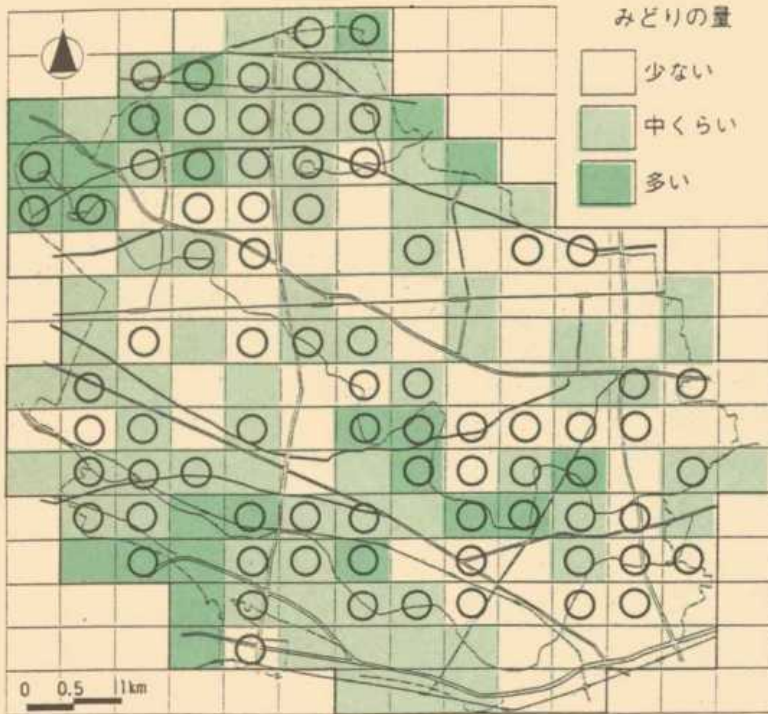
■第1回調査結果



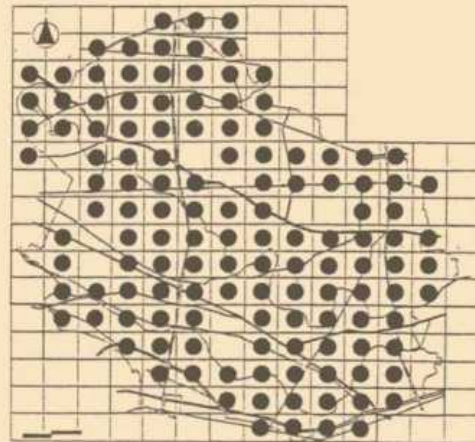
■第2回調査結果

○ヨモギ

日当たりの良い小さな空き地や道ばたなど、オオバコよりは踏み圧の少ないところにみられます。区内のほぼ全域にみられますが、オオバコに比べるとやや少ないようです。これまでの調査結果と比べると、徐々に減少しているようです。オオバコ同様、みどりの量との関係は特にみられませんでした。



■第1回調査結果

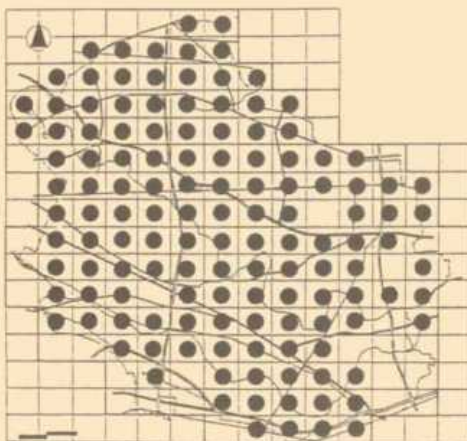
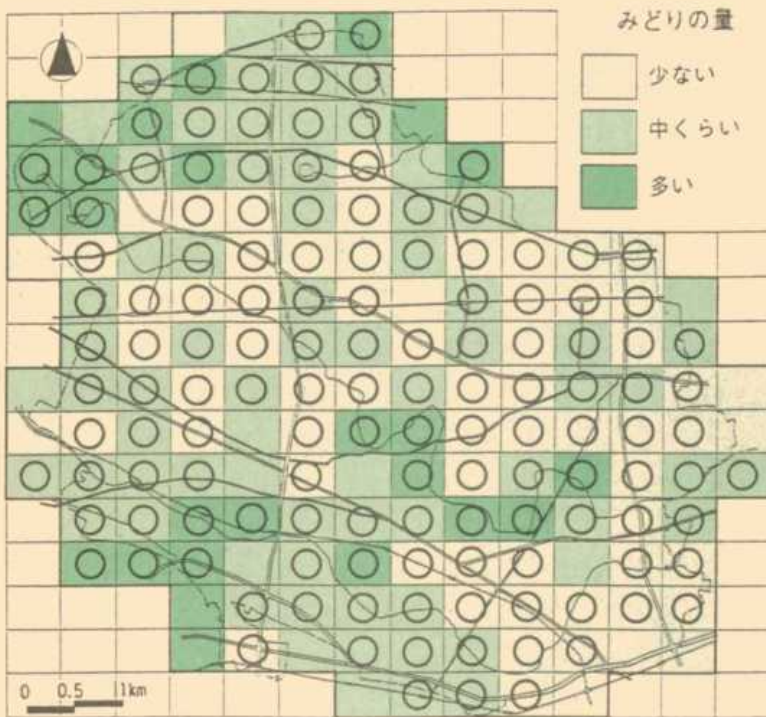


■第2回調査結果

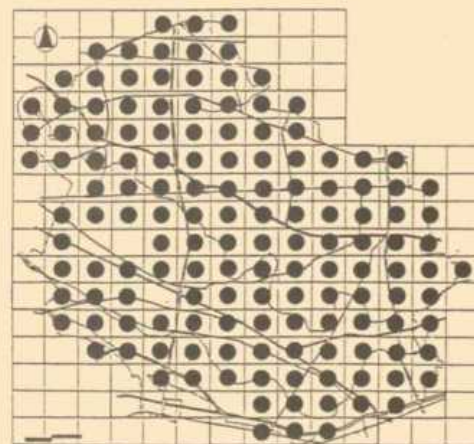


○ドクダミ

日陰で人の踏みつけがなく、比較的湿ったところならば、わずかなスペースにも生える植物です。みどりの多いところから、少ないところまで区内のほぼ全域にみられます。第1回の調査では、区の南東部に未確認地域がまとまってありましたが、第2回では区内のほぼ全域で確認されました。第3回でもほぼ全域に分布する傾向がありました。区の北西部や南西部などで狭い範囲ではありますが未確認地域がでています。



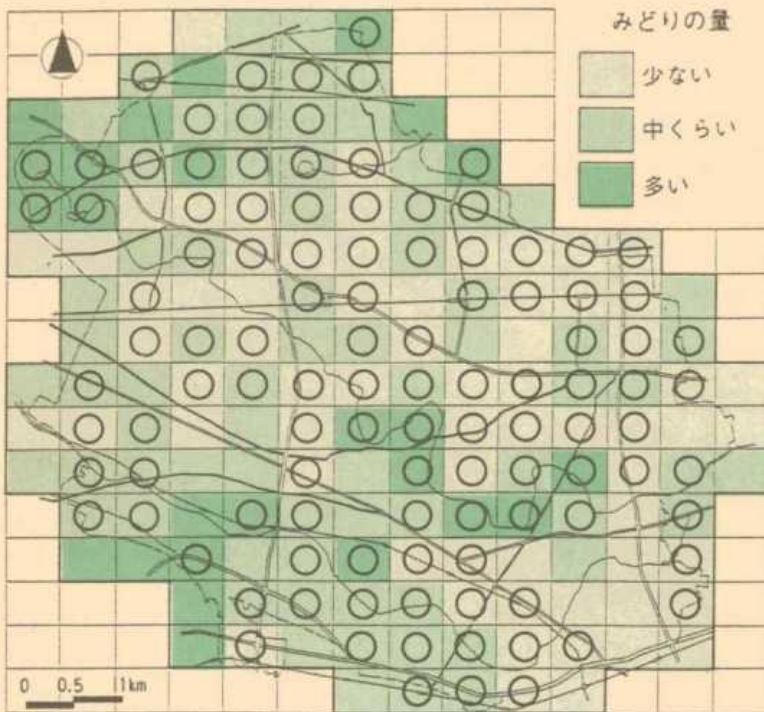
■第1回調査結果



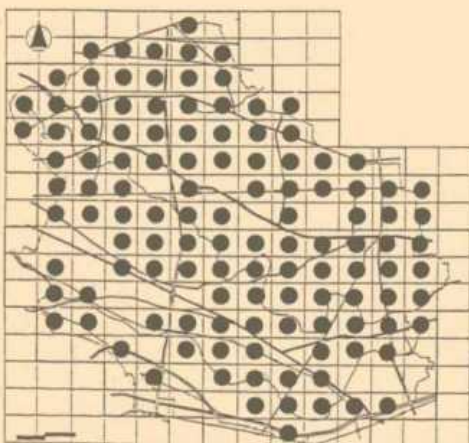
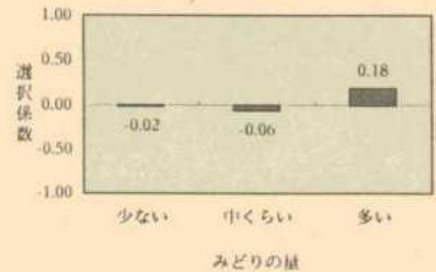
■第2回調査結果

○ムラサキカタバミ

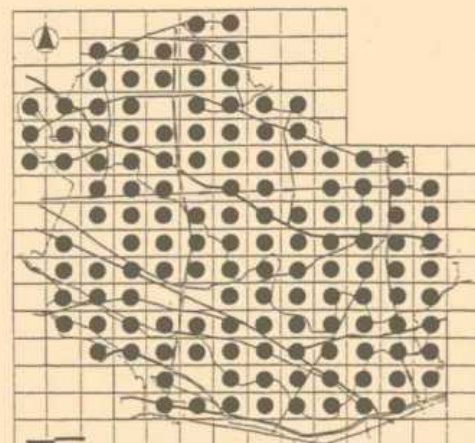
人の踏みつけが少なく、日当たりの良い、小さな空間や植え込みなどにみられる南米原産の帰化植物です。区内のほぼ全域にみられました。前回のアンケート集ではややみどりの少ないところを好む傾向がみられたのですが、今回はややみどりの多いところを好むという、まったく逆の結果となりました。これはその年の気象条件、生育条件の違いなどもあるかもしれませんが、明らかな要因は不明です。確認メッシュ数だけでみると、第1回が119、第2回が133と増えましたが、第3回は109となり、これまでの調査結果と比べると、全体的にはやや少なくなっているようです。



■みどりの量と生き物の分布



■第1回調査結果

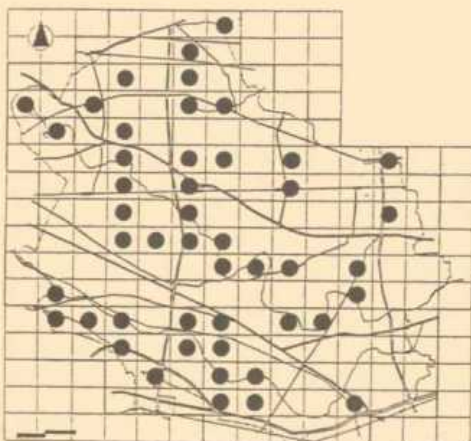
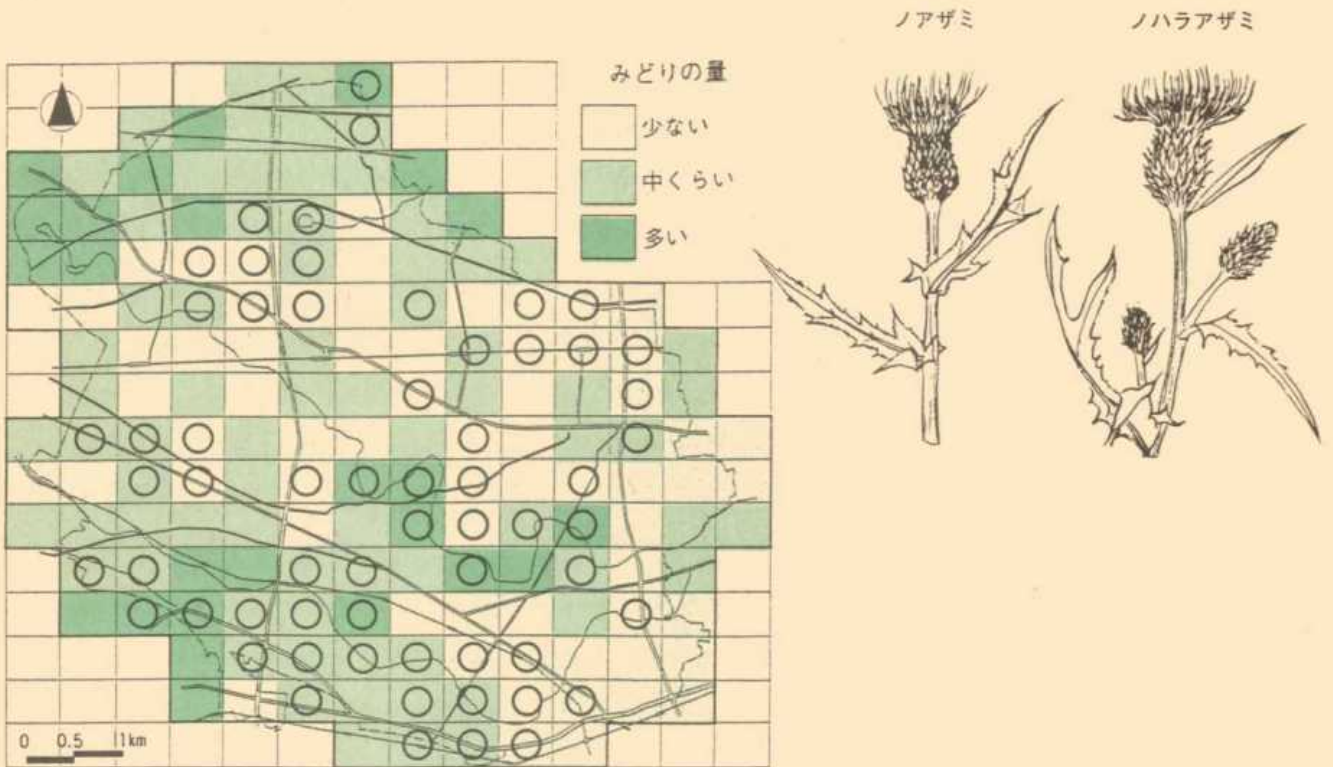


■第2回調査結果

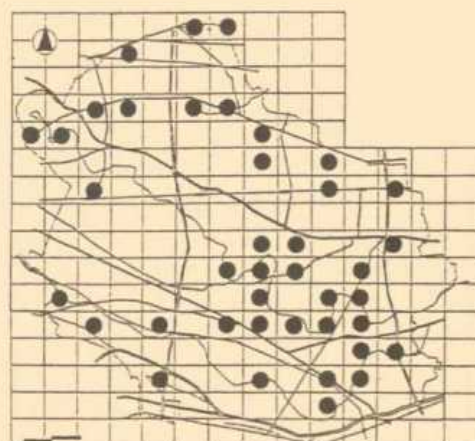
注目種

○ノアザミ・ノハラアザミ

この2つはいずれもアザミの仲間ですが、種類の異なるもので、姿や花の咲く時期なども異なります。ノアザミは春～夏に、ノハラアザミは夏～秋に花をつけます。どちらも、日当たりの良い草地などにみられますが、ノアザミはやや湿り気のあるところに生育し、ノハラアザミはやや乾いたところに生育するとされています。区内では善福寺川上流部のほか、善福寺川緑地公園や和田堀公園のある中流部、妙正寺川沿い、神田川沿いの下流部、そして区の北部や南西部などでみられます。みどりの量とは特に明瞭な関係はみられませんでした。



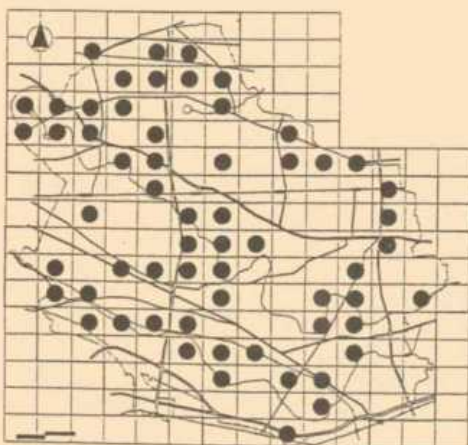
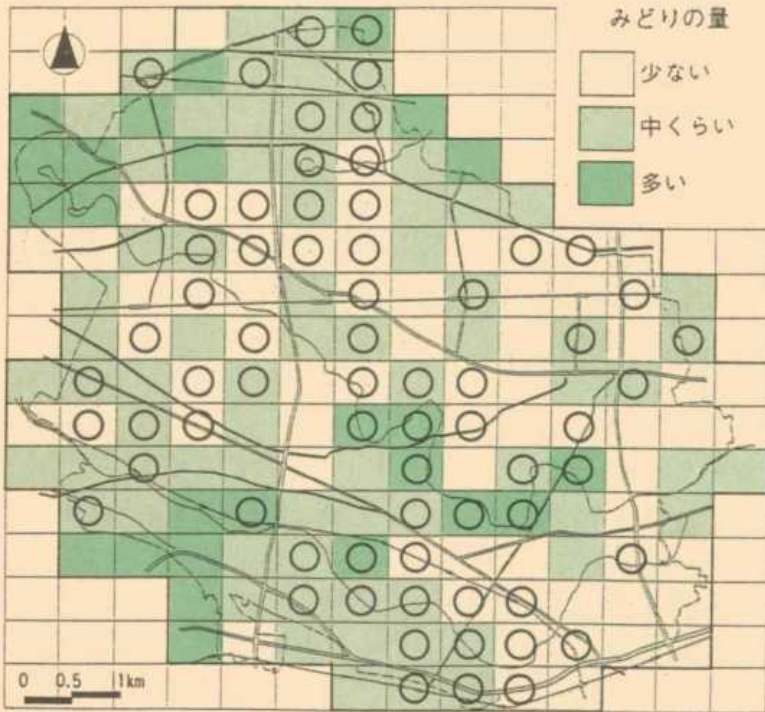
■第1回調査結果



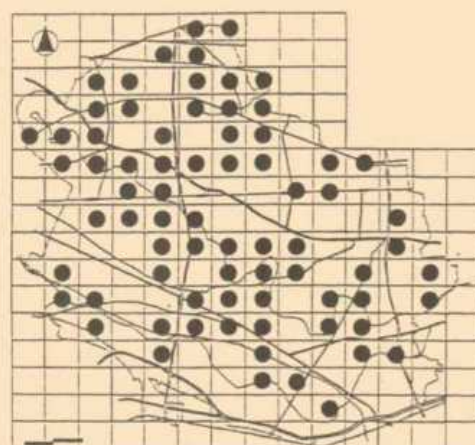
■第2回調査結果

○ホタルブクロ

日当たりの良い林縁や、草地に生える植物です。荻窪から高円寺にかけての青梅街道沿い、環八通りよりも西の五日市街道、井の頭通りよりも東の神田川、甲州街道沿いなどに未確認地点が点在するほかは比較的広い範囲で見られます。第1回、第2回に比べると、分布傾向に変化がみられ、善福寺公園周辺や阿佐谷北地区で減少し、区南部の神田川周辺でやや増えています。また、みどりの量との関係では、これまでの調査ではみどりの量の多いところに分布する様子が見られましたが、今回の調査では特に著しい傾向はみられませんでした。



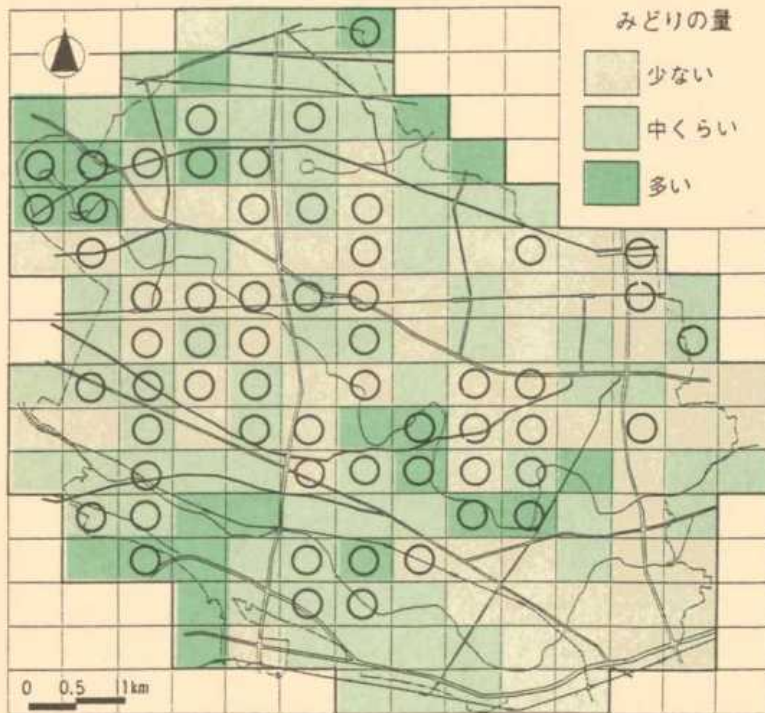
■第1回調査結果



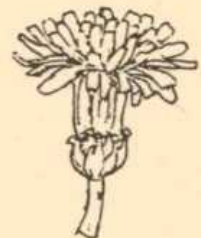
■第2回調査結果

○カントウタンポポ

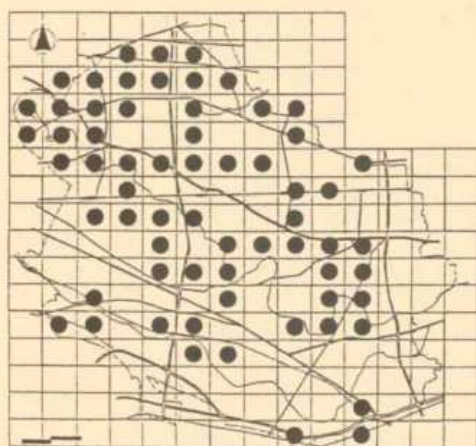
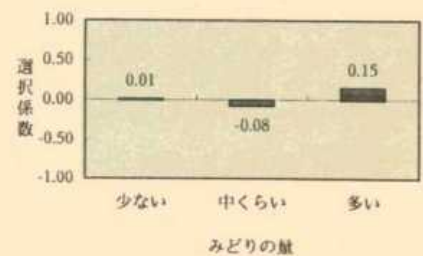
本種は日当たりの良い草地にみられる在来のタンポポです。次に示す帰化種のセイヨウタンポポに比べると、人の影響の少ないところに生育し、近年都市部では少なくなっている植物です。区内の分布に大きな変化はみられませんが、確認メッシュ数は第1回（メッシュ数：64）に比べると、第2回（57）、第3回（58）とやや少なくなっています。また、みどりの量との関係では、みどりの多いところに分布する様子がみられました。



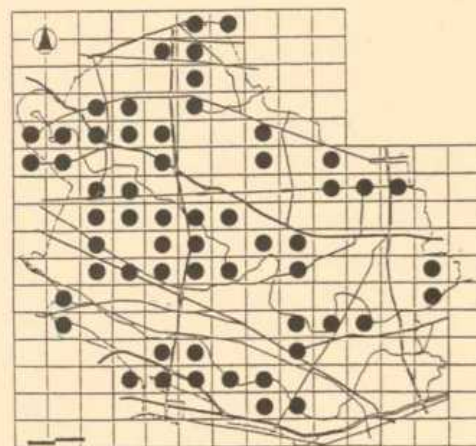
カントウタンポポ



■みどりの量と生き物の分布



■第1回調査結果



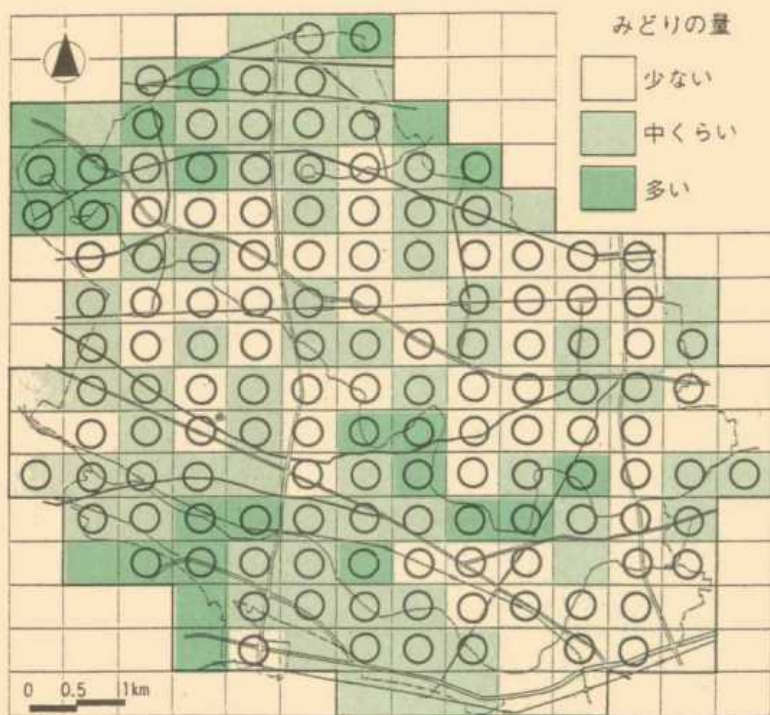
■第2回調査結果

帰化植物

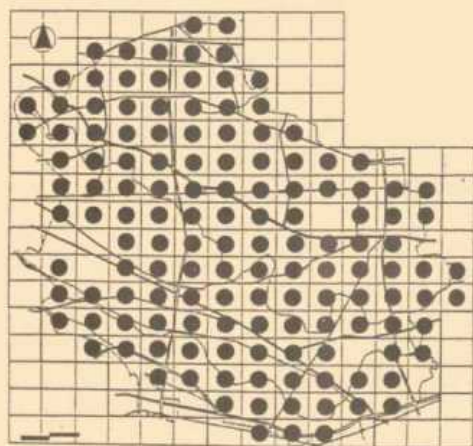
○セイヨウタンポポ

日当たりの良い道端や空き地など、人がよく行き来する場所にいち早く侵入します。つぎに紹介するヒメオドリコソウと同様、ヨーロッパ原産の帰化植物です。

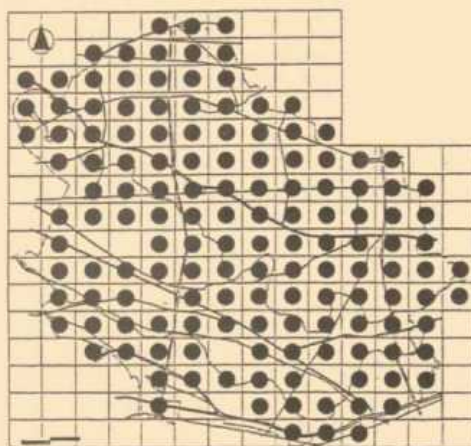
区内では第1回調査時からほぼ全域でみられています。繁殖力が強いので、在来種のカントウタンポポを圧倒する勢いで生育しています。両者の今後の動向に注目したいものです。



セイヨウタンポポ



■第1回調査結果

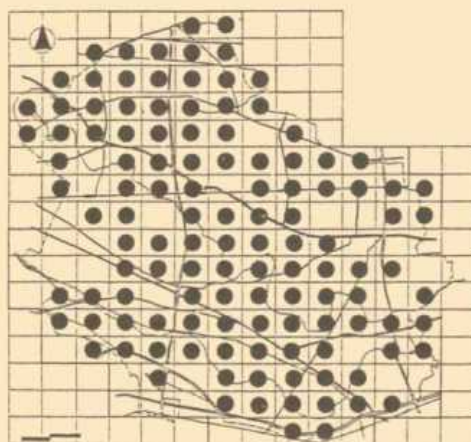
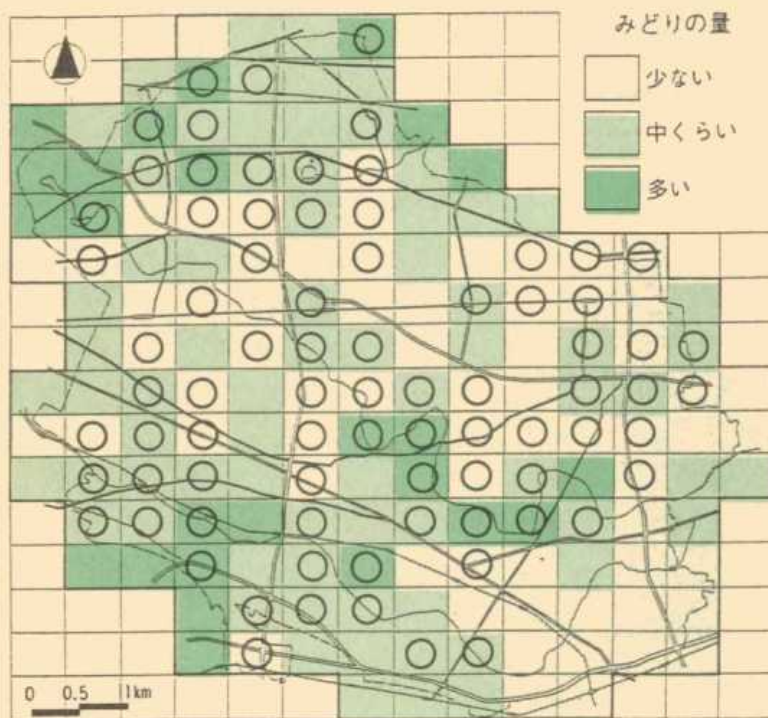


■第2回調査結果

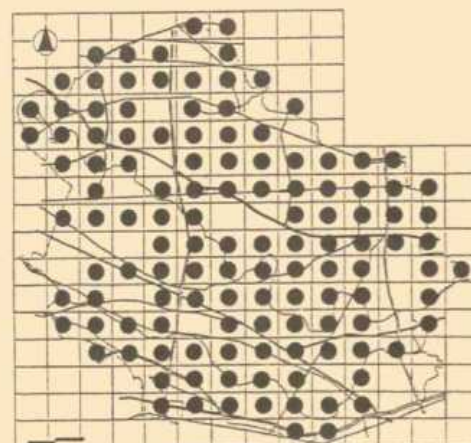
○ヒメオドリコソウ

人の踏みつけが少なく日当たりの良い草地から、小さな空き地にまでみられるヨーロッパ原産の帰化植物です。日本では明治26年頃、東京の駒場付近で初めて確認されたのち、以来徐々に分布域が広がったようです。現在、東京都や長野県では害草化しているともいわれています。

これまでの第1回および第2回調査では、区内でもほぼ全域で確認されていますが、第3回調査では確認メッシュ数が79と第1回の119、第2回の123に比べて少なくなってきました。現在は衰退化しているのかもしれない。



■第1回調査結果



■第2回調査結果

季節別の代表的な野草

○春を代表する野草

春を代表する野草として、タネツケバナ、タチツボスミレ、オオイヌノフグリ、オニタビラコが挙げられます。

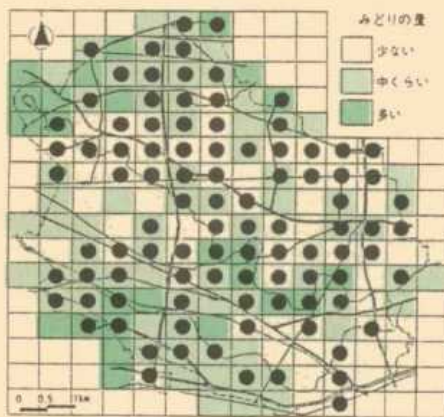
タネツケバナは田のあぜ、溝の縁、水辺など湿ったところに生え、春に小さな花をつける越年生の草本です。区内では西部や東部、南東部などの一部に未確認メッシュがありますが、ほぼ全域に広くみられます。

タチツボスミレは樹林内から草地まで普通にみられるスミレです。区内ではほぼ全域にわたって広くみられます。

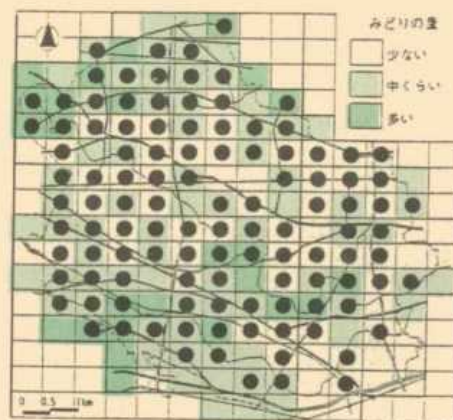
オオイヌノフグリは春先にコバルトブルーの小さな花をつけるヨーロッパ原産の帰化植物です。畑や道ばたに普通に分布し、区内では南側の一部に未確認メッシュがありますが、ほぼ全域に広くみられます。在来のイヌノフグリは全国的にこの植物に圧倒され、少なくなっており、区内でも今はみられなくなっています。

オニタビラコは道ばたや庭などに生え、黄色の花を咲かせる一年または越年草です。区内の北側および南西側にかたよってみられますが、みどりの量との関係は特にみられませんでした。

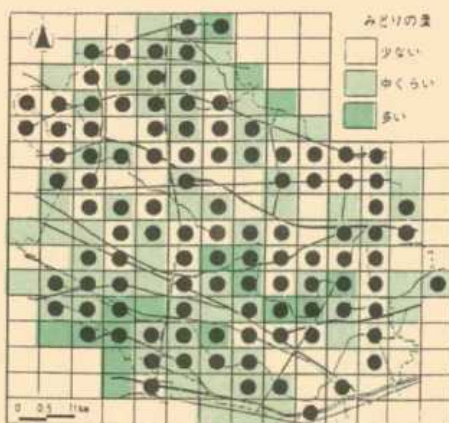
タネツケバナ



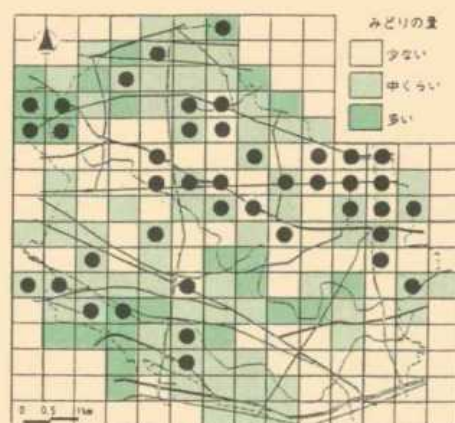
タチツボスミレ



オオイヌノフグリ



オニタビラコ



○夏を代表する野草

夏の暑い盛りに花を咲かせる植物として、ツユクサ、ギシギシ、ヘクソカズラ、ヒメジョオン の4種をとりあげました。

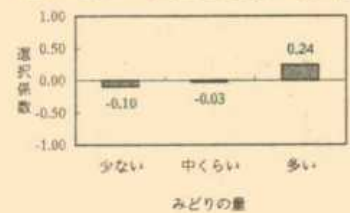
ツユクサはやや湿ったヤブのへりや路傍にみられる植物で、6月～9月に鮮やかな青い色の花を咲かせます。区内ではほぼ全域にみられます。

ギシギシはやや湿った草地や道ばた、水辺などに生える多年生の草本です。6月頃淡緑色の小さい花を輪生します。区内では北西部や南西から東部にかかるところにみられます。みどりの量の多いところに多くみられるようです。

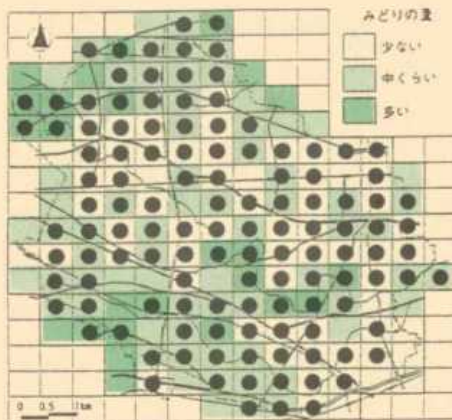
ヘクソカズラは樹林の中から林縁部にかけてみられるツル性植物です。指で揉むと特有の臭いがあるのでこのようなおかしな名前が付けられましたが、花は白地で内側が紫色した鐘状の小さな花をつけます。区内ではみどりの量が多い地域を中心にみられます。

ヒメジョオンは北米原産の越年生の帰化植物です。区内では全域に広くみられます。よく似た同じ帰化植物のハルジオンは春に開花し、茎が中空で、頭花がうなだれることで区別できます。

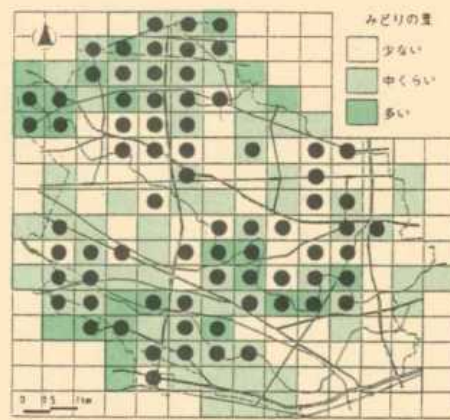
■みどりの量と生き物の分布



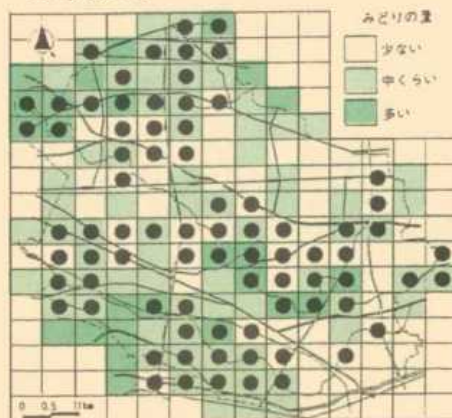
ツユクサ



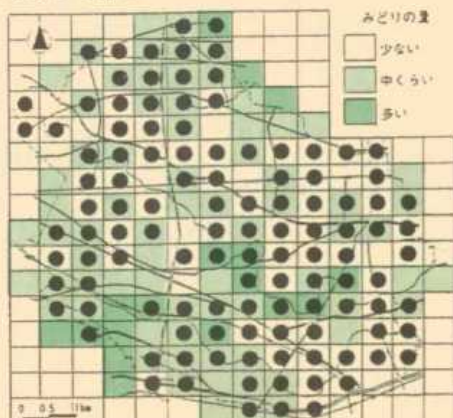
ギシギシ



ヘクソカズラ



ヒメジョオン



○秋を代表する野草

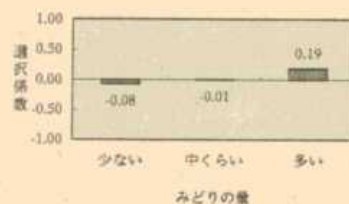
秋になると目立つ植物であるヒガンバナ、カラスウリ、ヨメナ、アキノノゲシの4種をとりあげてみました。

ヒガンバナ（彼岸花）は、彼岸の頃（9月の下旬）大きな赤い花を輪生します。マンジュシャゲ（曼珠沙華）という、仏教にかかわりの深い名もつけられています。畑の縁や堤防、墓地などに群生します。区内では広域で見られ、みどりの量との関係は特にみられませんでした。

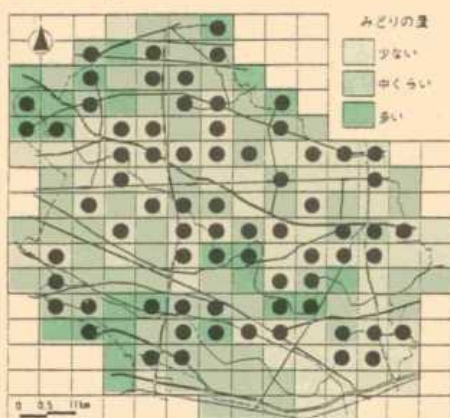
カラスウリは秋に5～7cmの楕円形の赤い実をつけるツル性植物です。区内では北部の屋敷林の多いところや南西部の耕作地の多いところ、南東部の善福寺川緑地など、全般にみどりの量の多いところにみられます。

ヨメナはやや湿り気のある耕作地の縁などに生え、秋に紫色の花をつける多年生の植物です。若芽は食用になります。嫁菜という名前は、同じく食用のムコナ（シラヤマギク）に対してつけられたそうです。区内ではカラスウリ同様、みどりの量の多いところにみられます。

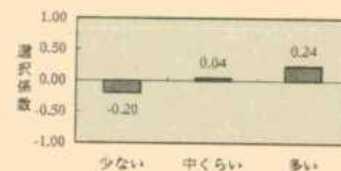
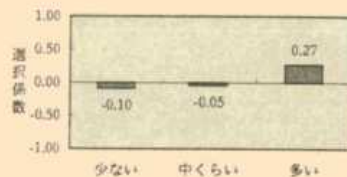
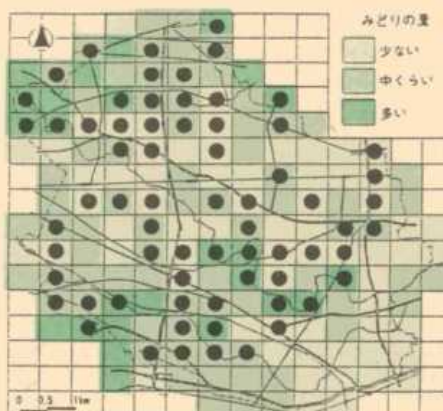
アキノノゲシは秋に2cm大の黄色い花をつける大型の1年生～越年生の植物です。春から夏に花の咲くノゲシに似て秋に開花するためこの名がついています。区内ではヨメナと同じような分布傾向がみられ、みどりの量の多いところにみられます。



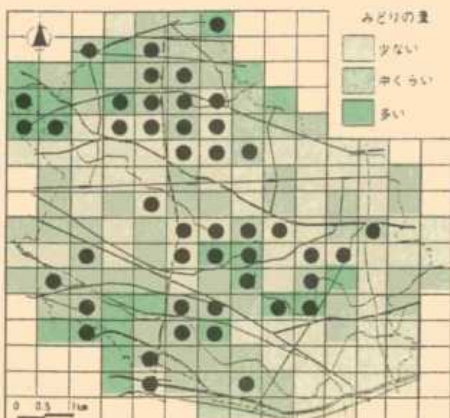
ヒガンバナ



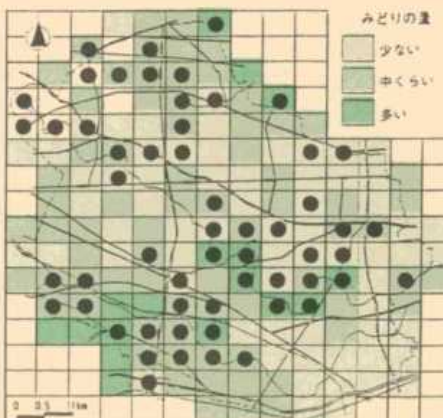
カラスウリ



ヨメナ



アキノノゲシ



動物

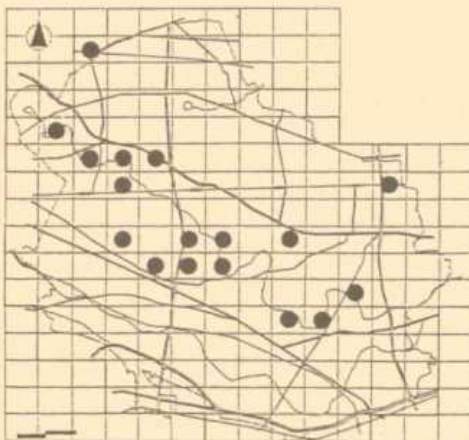
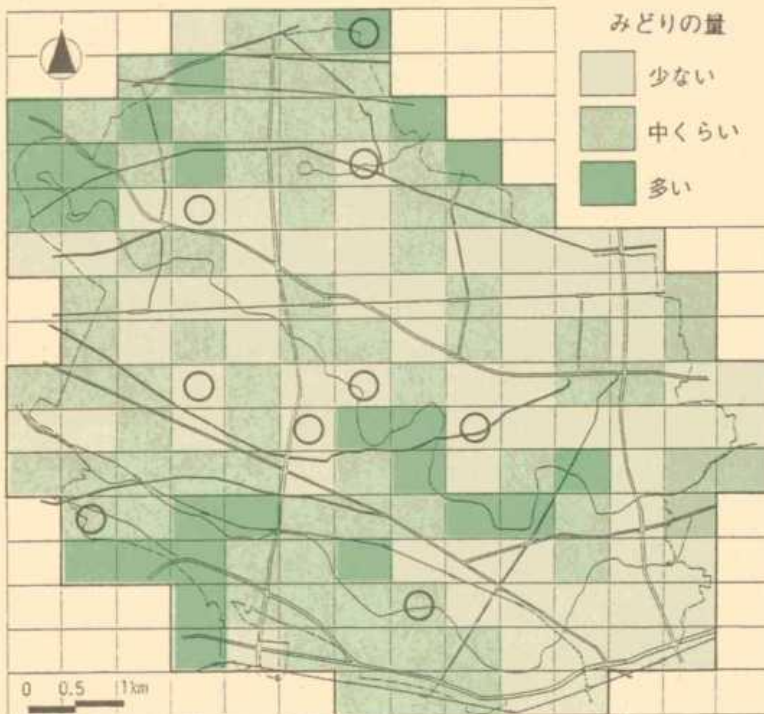
クモ類

杉並区内ではこれまでの調査で194種のクモが記録されました。クモと一口にいても、地中に穴を掘るクモ、木の周などの空中に網を張るクモ、地面の上に網を張るクモ、葉の上や樹木の上などを歩くクモ、地上を歩くクモなど様々です。

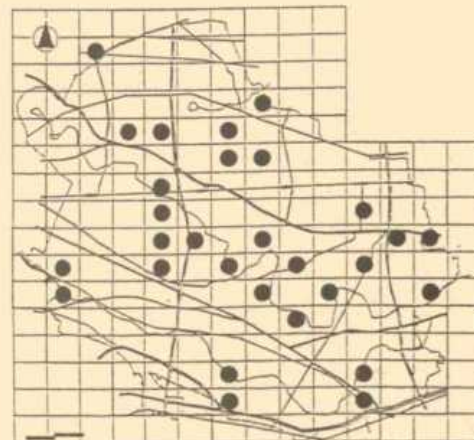
○オニグモ

庭木の多い住宅地などにみられる大型のクモです。夜行性のため昼間は樹木の葉の陰に隠れていますが、夕方になると丸い大きな網を張ります。照明に集まってくるガなどの昆虫を捕らえているのがよくみられます。

第3回調査の結果、分布はこれまでと同様、区内の比較的広い範囲にわたっていることがわかりました。ただし、第1回アンケートでは17メッシュ、第2回は29メッシュで記録されていたのに対して、第3回ではわずかに9メッシュしか記録がありませんでした。生息地が激減している様子が見えます。



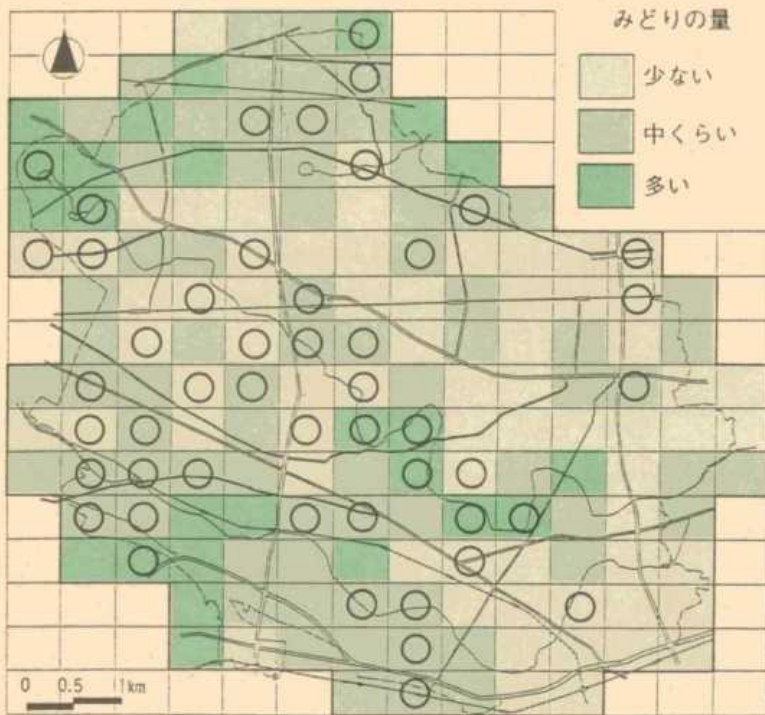
■第1回調査結果



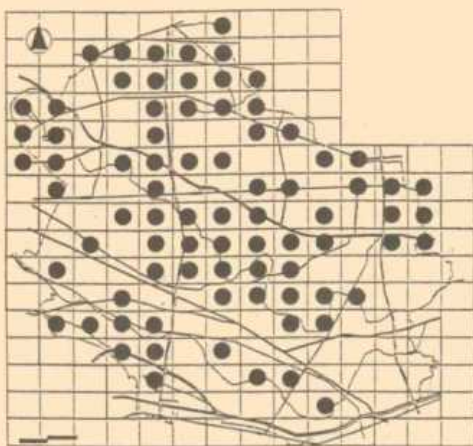
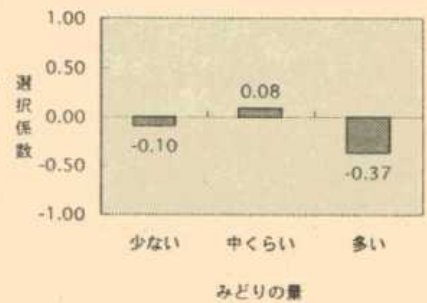
■第2回調査結果

○ジョロウグモ

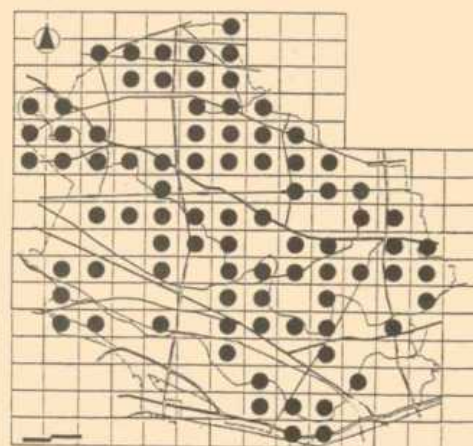
オニグモと同じ仲間で、胴体に黄色と赤が目立つクモです。公園の樹木や庭木、生け垣の間などに大きな丸い網を張っています。区内全域に広くみられます。みどりの量との関係では中くらいのところを好むようですが、みどりの少ない所でも分布しています。第1回、第2回まではあまり大きな変化はみられませんでした。第3回では区内を東西に横切る青梅街道と早稲田通りに挟まれた地域で記録が少なくなっている様子がみられました。



■みどりの量と生き物の分布



■第1回調査結果



■第2回調査結果

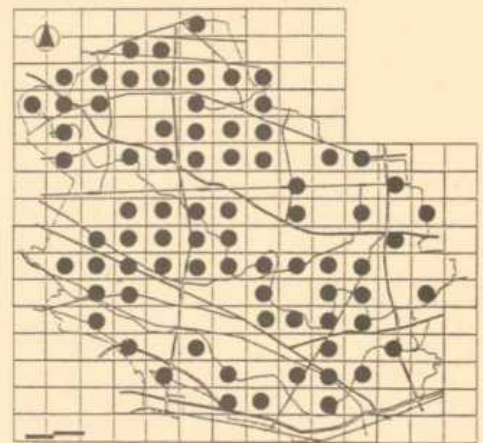
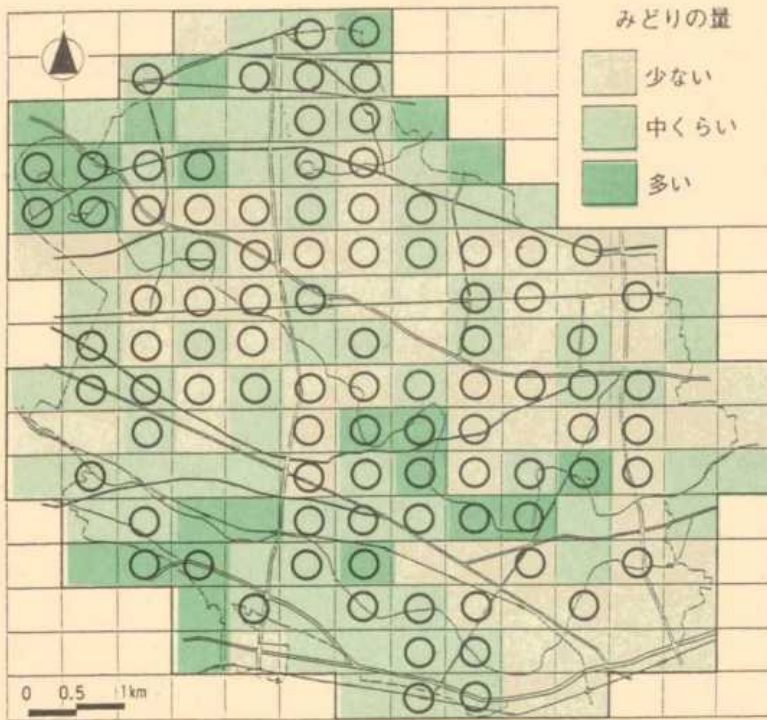
昆虫類

これまでに行われた第1次（昭和60・61年度）、第2次（平成2・3年度）、第3次（平成7・8年度）の「杉並区自然環境調査」では、合計175科743種の昆虫類が確認されています。このなかには、東京都ではわずかな地域にしかみられなくなったトウキョウヒメハンミョウやクロスジギンヤンマなども含まれています。

第3回アンケートでは「セミのぬけがら」、「夏の昆虫」、「秋の昆虫」について情報を頂きましたが、ここでは「セミのぬけがら」だけを示し、「夏の昆虫」、「秋の昆虫」については「杉並区自然環境調査報告書—第3次—」の出現種リストの参考とさせて頂きました。なお、第3回アンケートではアブラゼミ、ミンミンゼミ、クマゼミ、ニイニゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシの計6種についての情報がありました。比較する種類については第2回で選定した以下の3種としました。

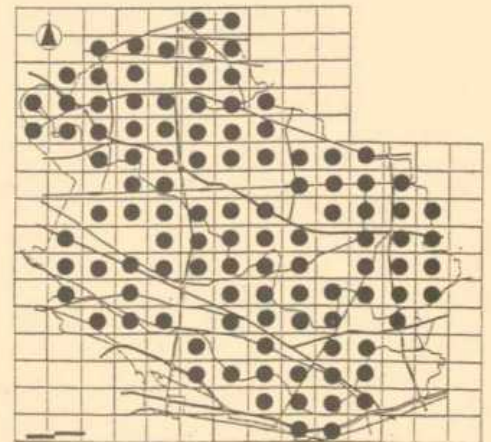
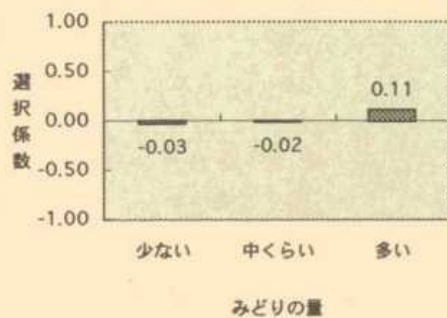
○アブラゼミ

樹木のあるところならどこにでもみられる区内の代表的なセミです。羽が茶色で、夏に「ジーシリシリシリ」と鳴いている姿をみかけますが、成虫になるには7～8年もかかります。アンケートの結果によれば区内のほぼ全域で記録され、10年前の第1回と比べてもそれほど変化していないようです。みどりの量との関係ではみどりの量が多いところを好む傾向がみられます。



■第1回調査結果

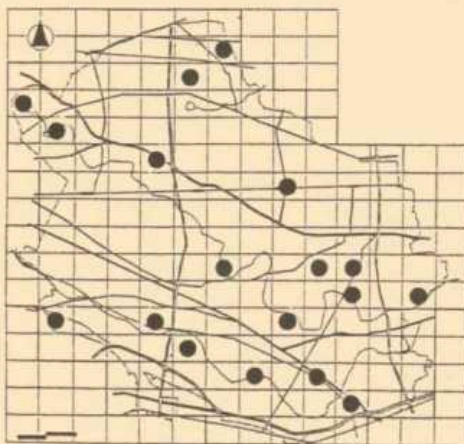
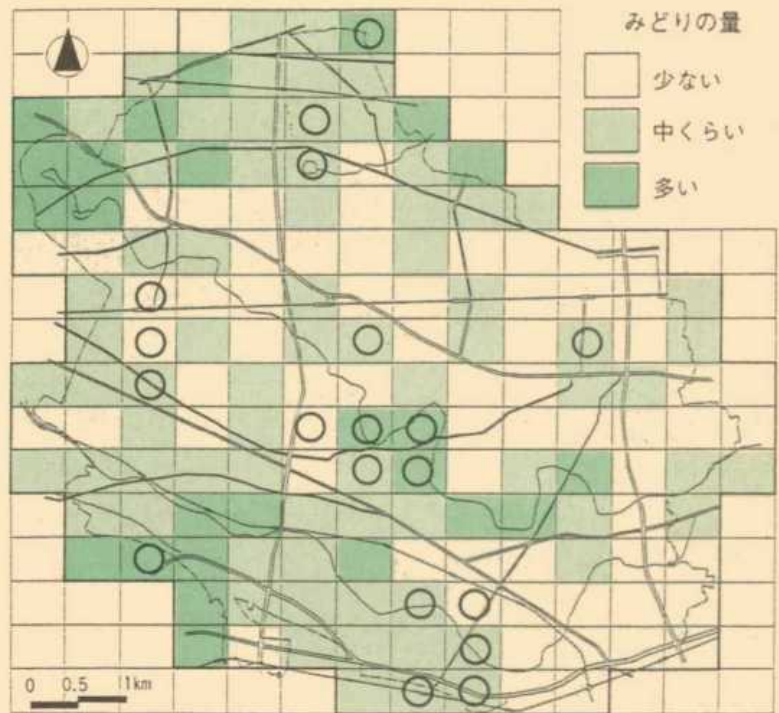
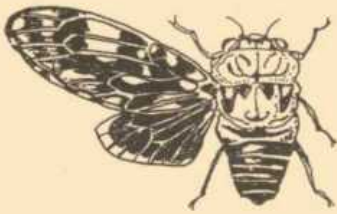
■みどりの量と生き物の分布



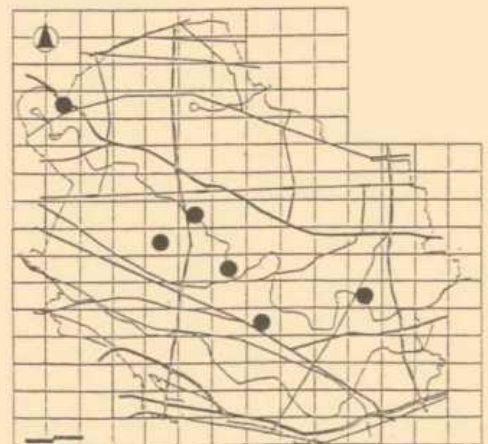
■第2回調査結果

○ニイニイゼミ

区内でみられるセミの中では一番早く現れるセミで「チー」と細い声で鳴きます。みどりの多いところを好むセミとされ、第2回では比較的緑地の多い善福寺川沿いに分布が偏る傾向がみられました。第3回では第1回と同程度の記録が得られていますが、これには成虫による確認記録も含まれています。「ぬけがら」調査だけの結果に限定すると善福寺川緑地公園付近と、区の南部地域の2つの地域のみでした。本種はサクラの木を特に好むセミであることから、緑地に多く植樹されているサクラの木周辺を舗装せず、土のまま残すと今後も発生が期待できます。



■第1回調査結果

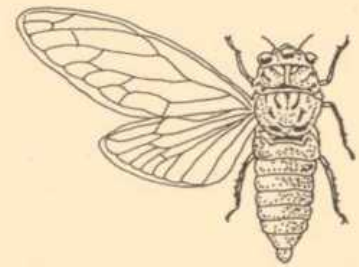
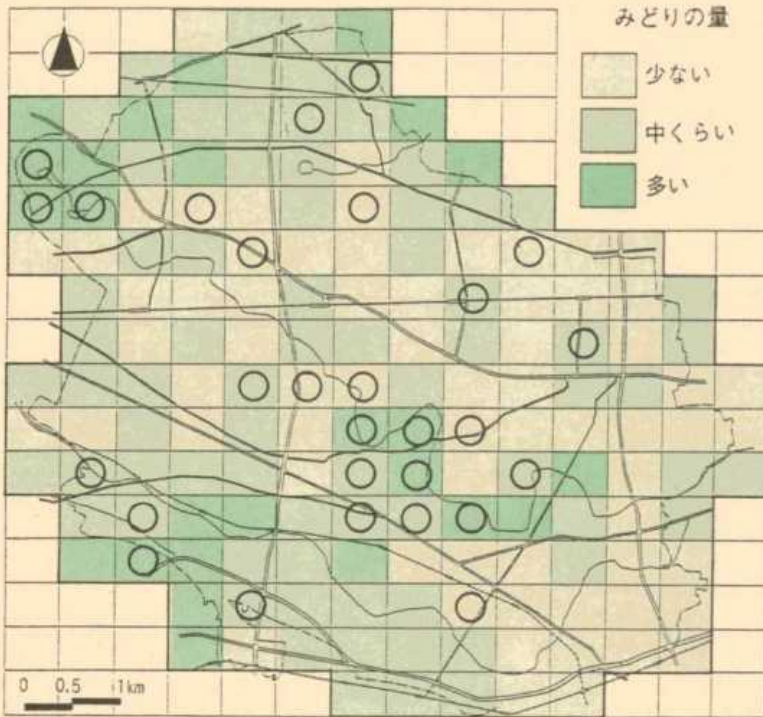


■第2回調査結果

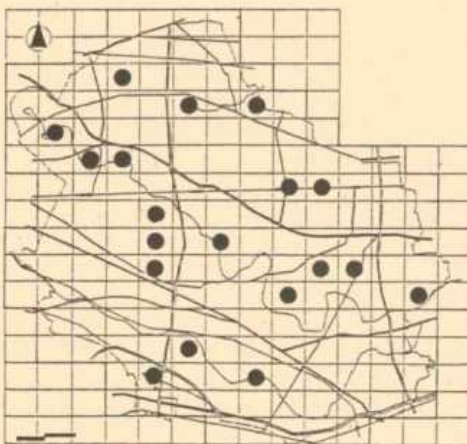
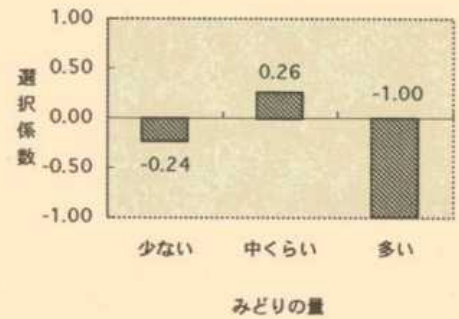
○ヒグラシ

日暮れ周辺になると「カナカナカナ」と鳴きだし、夜になることを知らせてくれるセミです。実際には夕方だけではなく明け方にも鳴きます。

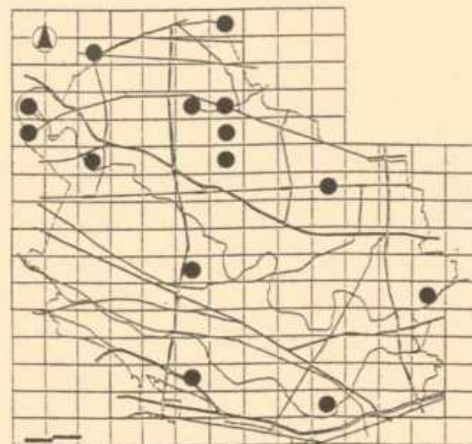
最近、区内でも減少してきたセミですが、第3回の結果では緑地がまとまって残っている公園、神社などを中心に比較的広い範囲で記録されました。ただし、これにはニイニゼミと同様、成虫の記録も含まれています。みどりの量との関係では、中くらいのところを好む傾向がみられました。



■みどりの量と生き物の分布



■第1回調査結果



■第2回調査結果

鳥 類

杉並区ではこれまでに行われた第1次（昭和60・61年度）、第2次（平成2・3年度）、第3次（平成7・8年度）の「杉並区自然環境調査」によって、合計14目26科60種の鳥類が記録されています。市街の環境を反映して、スズメが最も多くなっています。季節的には夏よりも冬に種類が多くなります。

アンケートは「冬の水鳥」「冬の野鳥」「ツバメの巣しらべ」「鳥の集団ねぐら」「餌台にくる鳥」「鳥の食性調査」の6項目について行いました。このうち、「餌台にくる鳥」「鳥の食性調査」の一部は「杉並区自然環境調査報告書—第3次—」にも活用させて頂きました。

冬の野鳥

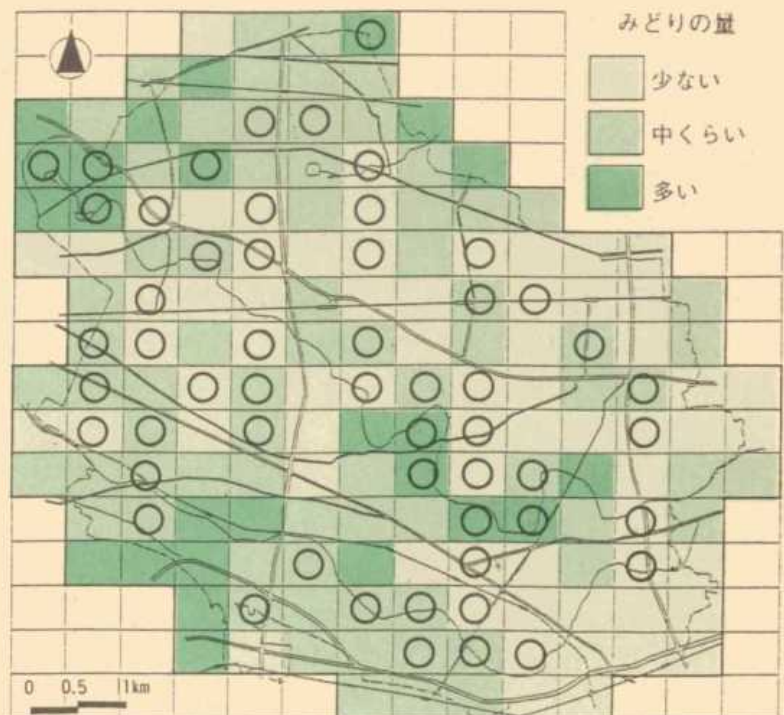
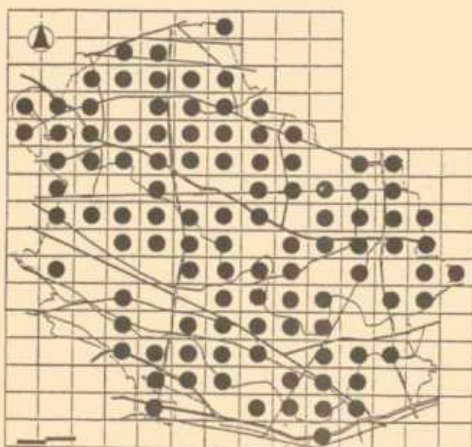
杉並の冬の野鳥の代表種としてツグミ、ウグイス、アオジの3種が挙げられます。ツグミは北方からの冬鳥、ウグイス、アオジは山地などから冬を過ごして降りてきたものと考えられます。

○ツグミ

地域的な偏りがなく区内に広く出現しました。しかし全体の約2/3のメッシュに出現した第2回の結果に比べて、今回の出現メッシュ数は、ほぼ半減しました。

なお、第1回アンケート調査による本種の出現情報をメッシュ化した図は無いため、ここでの比較は第2回のみとしました。

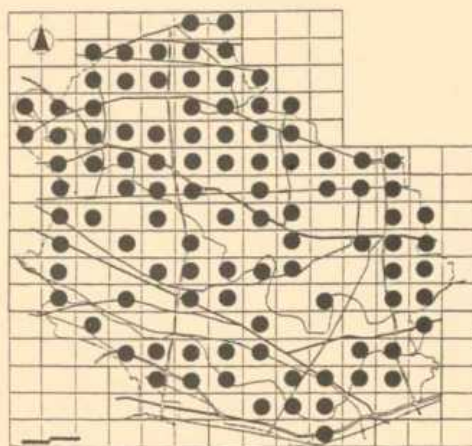
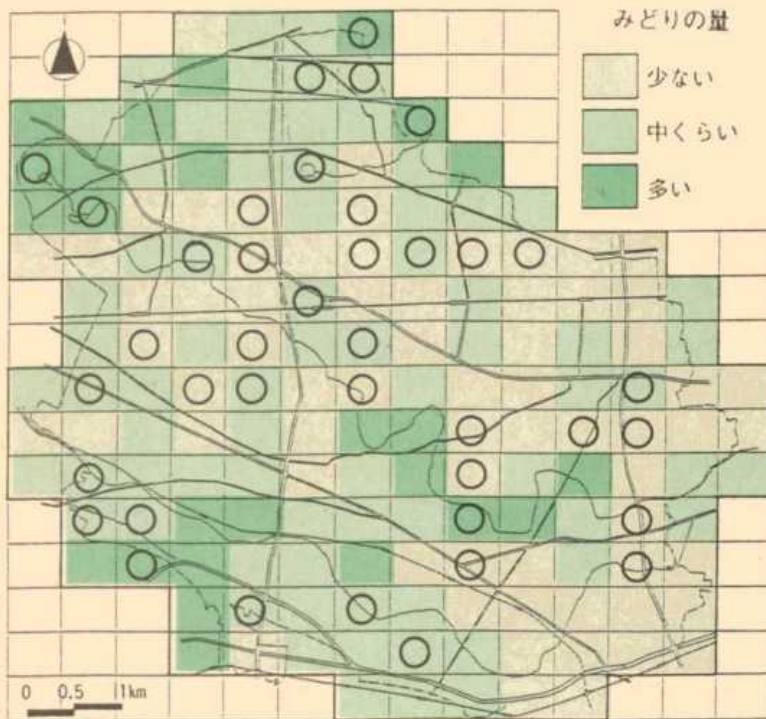
■第2回調査結果



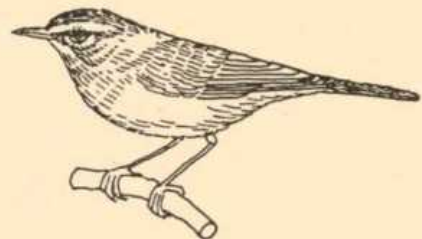
○ウグイス

ウグイスの分布もツグミとよく似ていて、出現地域に偏りはみられませんが、出現メッシュ数は第2回に比べ半数以下になりました。越冬地としての杉並区環境が悪化して訪れるウグイスの数が減ったか、あるいは山地の繁殖地の環境が改変してしまったかの、いずれかの原因が考えられます。

なお、ウグイスについても第1回アンケート調査による出現情報をメッシュ化した図は無いため、比較は第2回のみとしました。



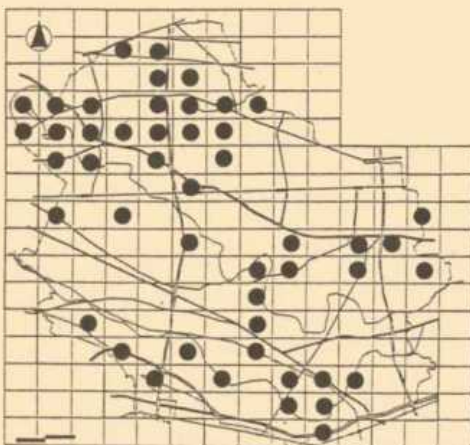
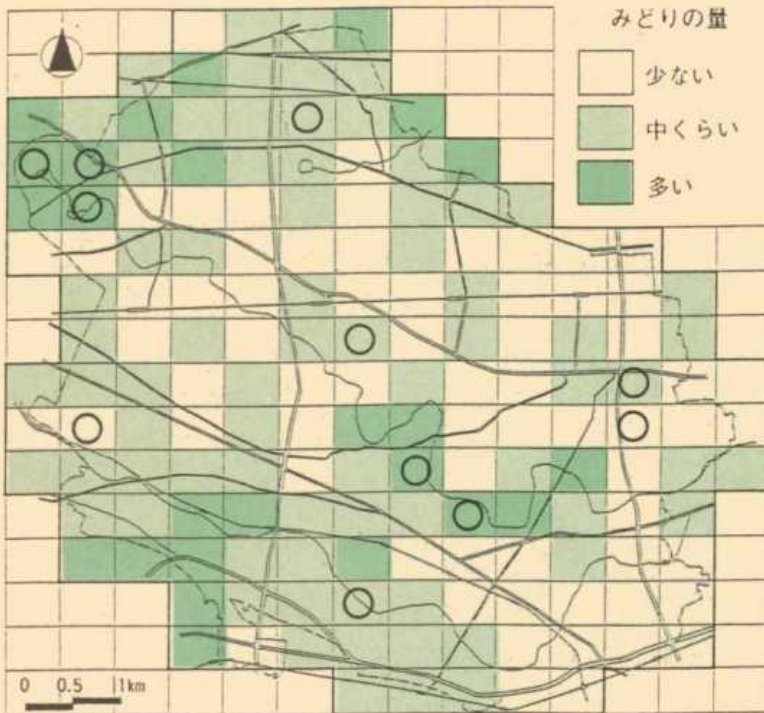
■第2回調査結果



○アオジ

第2回では区内に広く分布したアオジも、今回はわずかに11メッシュから報告されたにすぎませんでした。第2回に比べずいぶん減少しました。理由はウグイスと同じく繁殖地が区内の越冬地の環境が悪化したことが考えられます。あるいは双方の環境が変わりつつあるのかもしれません。

なお、アオジについても第1回アンケート調査による出現情報をメッシュ化した図は無いため、比較は第2回のみとしました。



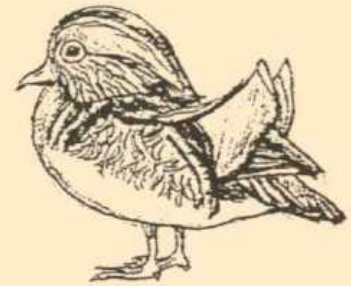
■第2回調査結果



冬の水鳥

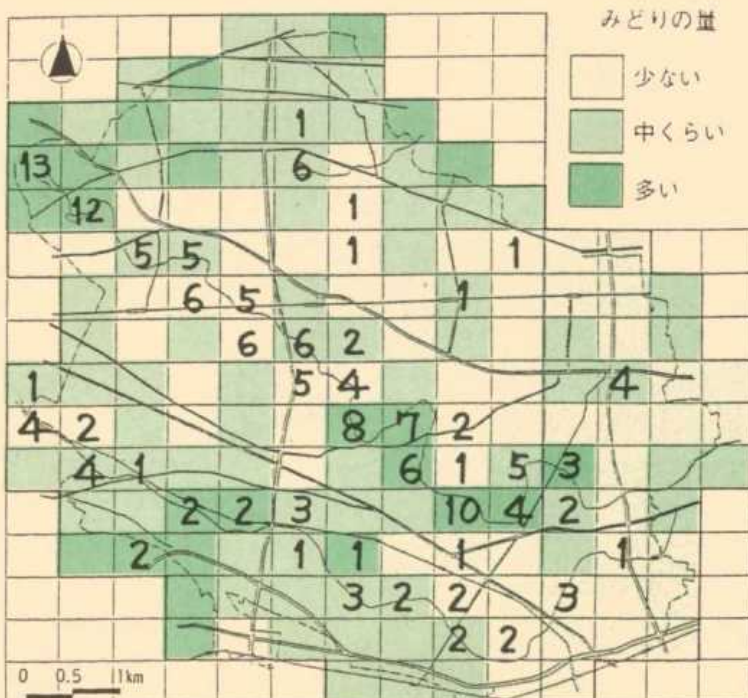
冬の水鳥については14種の回答が得られました。メッシュ数でみるとカルガモが最も多く39メッシュで記録されました。以下、コガモ、マガモ、オナガガモなどが善福寺池や善福寺川を中心に分布しているようです。水域のないメッシュに出現したのはコサギやユリカモメなどでしたが、ユリカモメは蚕糸の森公園の池で怪我をした個体の記録でした。コサギは上空に飛んでいるものが記録されたものと思われます。

グループ	No.	種名	出現メッシュ数		
			合計	平成7年	平成8年
カモ類	1	オシドリ	7	6	2
	2	オナガガモ	19	16	15
	3	カルガモ	39	28	27
	4	コガモ	25	19	16
	5	マガモ	20	17	11
	6	キンクロハジロ	2	1	1
サギ類	7	コサギ	18	14	13
	8	ゴイサギ	10	8	6
	9	アオサギ	1	0	1
	10	ダイサギ	4	4	1
その他	11	カイツブリ	9	7	6
	12	カワウ	3	1	3
	13	バン	4	4	3
	14	ユリカモメ	1	0	1



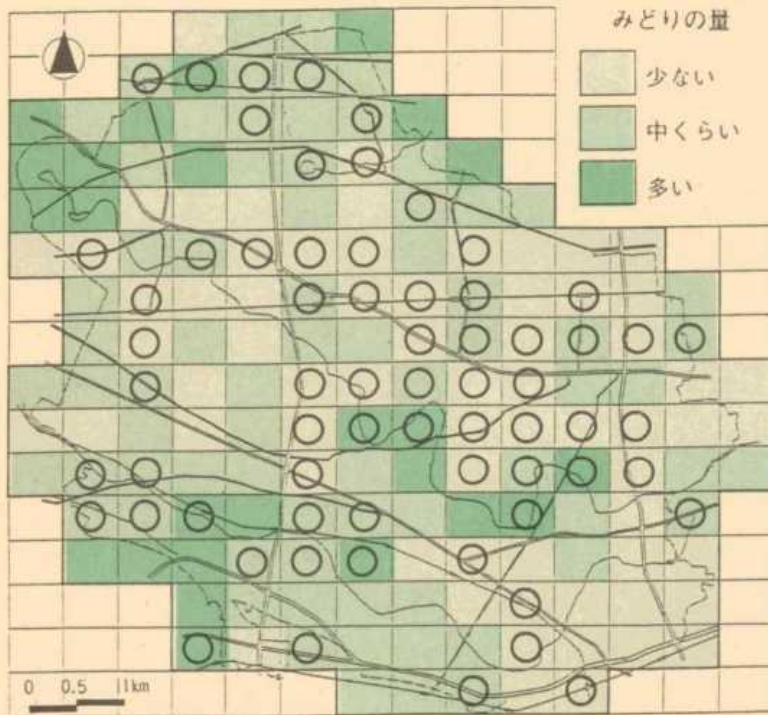
オシドリ

つぎに、区内ではどこの地域で水鳥類が確認されているのか、メッシュ図に落としてみました。メッシュ内の数値は、そのメッシュで確認された水鳥の種類数を示しています。善福寺川流域や神田川流域に沿って多く出現している様子がわかります。

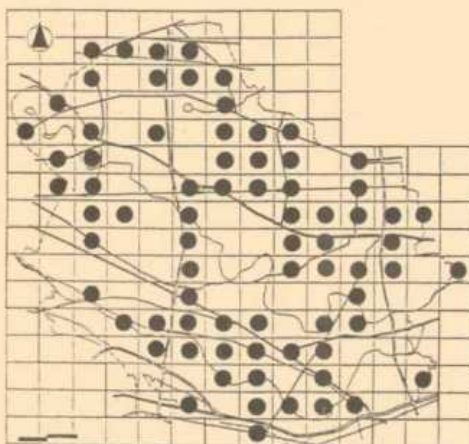
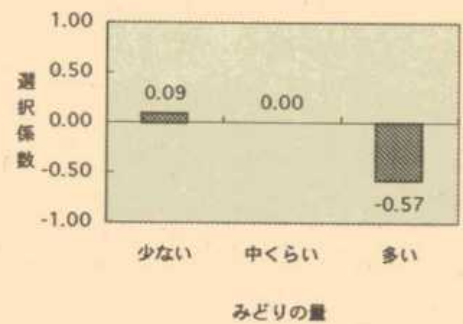


ツバメの巣しらべ

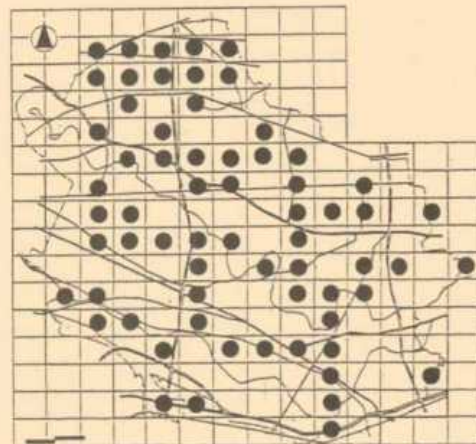
杉並の代表的な夏鳥であるツバメの巣の分布について、第1～3回の調査結果を比べてみました。松の木中学校の調査で、杉並のほぼ中央部のツバメの巣は年々減少していることがわかっていますが、今回の調査結果からメッシュ分布だけを見ると、第1回から第2回にかけては若干減ったものの、第2回から第3回にかけては差がありませんでした。詳細にみればそれぞれのメッシュの中の巣の数は減っているかもしれませんが。商店街に多く巣をつくるため、みどりの量の少ないところを好む結果になっています。



■みどりの量と生き物の分布



■第1回調査結果

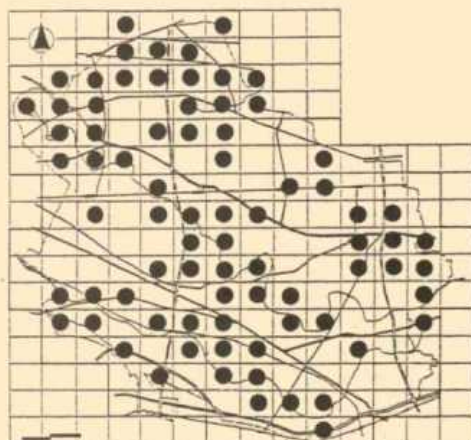
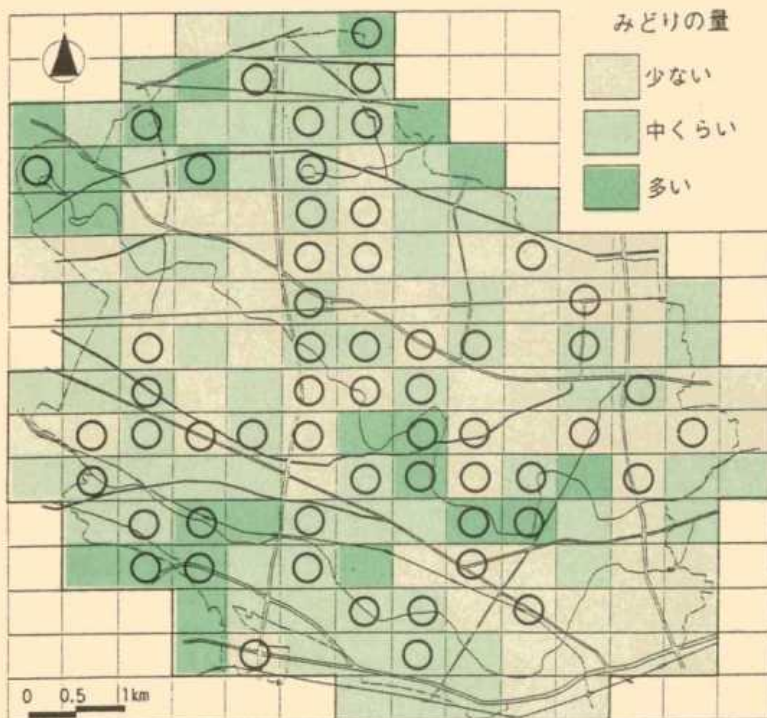


■第2回調査結果

鳥の集団ねぐら

スズメの集団ねぐらについては区内の各地から報告がありました。多くは竹藪や比較的大きな樹木がねぐらとして利用されているようです。そのほかムクドリやヒヨドリのねぐらも区内に少なくないようです。また、アンケートではこれらの3種以外にもキジバト、ハシブトガラス、オナガ、ハクセキレイ、シジュウカラ、カルガモ、オナガガモなどの情報も寄せられましたが、先の3種に比べると情報量は少ない結果となりました。今回のアンケート結果を第2回と比べると、全体的にねぐらの数はやや減ってきているようです。

なお、「鳥の集団ねぐら」は第1回アンケートでも実施されていますが、メッシュによる記録が残されていないため、比較は第2回のみとしました。



■第2回調査結果

餌台にくる鳥

餌台にくる鳥のアンケート調査結果には、餌台の場所や形あるいは餌の内容についての工夫がたくさん寄せられました。

寄せられた回答の中から、餌の種類ごとにどんな鳥がどんな餌を食べているか、事例が多いものを一覧表にしました。パンやご飯あるいはリンゴやミカンなど、鳥たちも私たちが普通に食べる物を好むようです。

餌の種類と鳥の種別採餌例

餌の種類	種名																	
	ヒヨドリ	スズメ	メジロ	キジバト	シジュウカラ	ムクドリ	ハシブトガラス	ツグミ	オナガ	ウグイス	カワラヒワ	ジョウビタキ	ドバト	モズ	シメ	ワカケホンセイインコ	コゲラ	アオジ
パン、パンくず	●	●	●	●	●	●	○	●	○	○	○	○	○		○	○		
ご飯類(米、ご飯等)	●	●	●	●	○	●	○	○	○	○	○	○	○				○	
リンゴ	●	●	●	○	●	●	○	○	○	○		○	○	○				
ミカン	●	○	●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○					
柿	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○				○			○	
肉類(肉、脂肪等)	●	○	●	○	●	○	○	○	○	○	○							
ヒマワリ	○	○	○	○	●	○	○		○		●	○				○	○	○
市販の鳥の餌	○	●	○	●	○	○				○	○	○			○			
ハチミツ	○	○	○		○	○		○		○	○	○			○			

●：多くの観察事例が寄せられた

○：観察事例が少し寄せられた

鳥の食性調査

公園の草木や庭木、ベランダの鉢植えなどで鳥についばまれていた植物の観察例が多くの方から寄せられました。餌台にくる鳥と同様に、どんな鳥がどんな植物を食べているのか一覧表にしてみました。

植物の種類と鳥の種別採餌例

植物の種類	種名															
	ヒヨドリ	メジロ	ムクドリ	スズメ	シジュウカラ	ハシブトガラス	キジバト	オナガ	ツグミ	ドバト	ウグイス	アオジ	カワラヒワ	モズ	シロハラ	ジョウビタキ
カキ	●	●	●	●	●	●	○	●	●	○	○	○	○	○	○	
ピラカンサ	●	○	○	○	○	●	○	○	○	○		○				○
ナンテン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
マンリョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
エノコログサ	○	○	○	●	○	○	○	○		○			○			
ムラサキシキブ	○	○	○		○	○	○	○	○			○				
クちなシ	○	○	○	○	○	○				○		○				
ツバキ	○	○	○	○			○	○			○			○		
ウメ	○	○	○	○	○		○	○			○			○		
サザンカ	○	○	○	○												
ミカン	○	○	○		○	○			○							
センリョウ	○	○			○		○									○

●：観察事例が多く寄せられた

○：観察事例が少し寄せられた

小動物

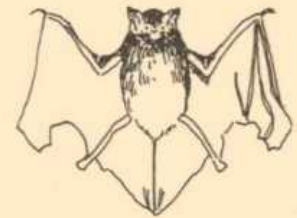
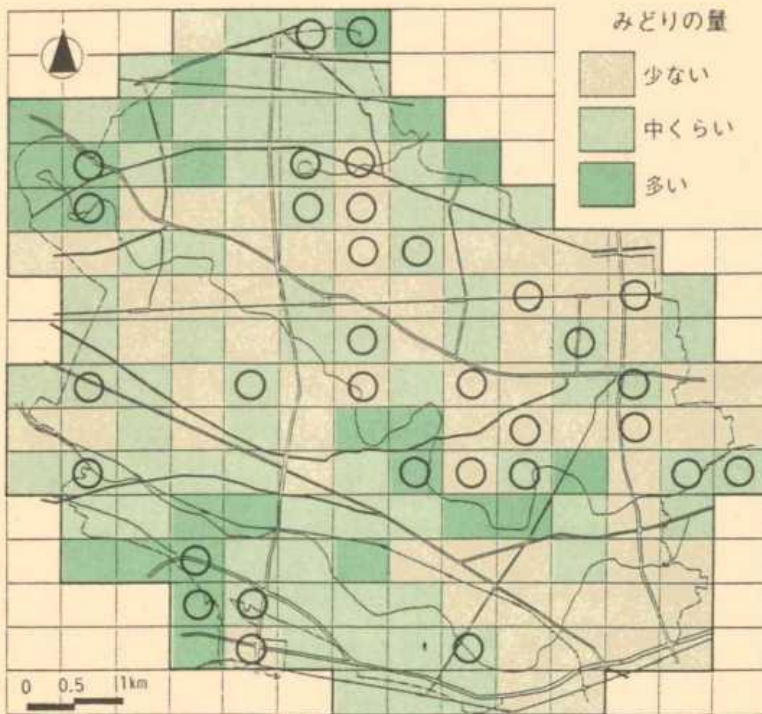
ここでは、ほ乳類、両生類、は虫類のアンケート調査結果を示しました。

〔ほ乳類〕

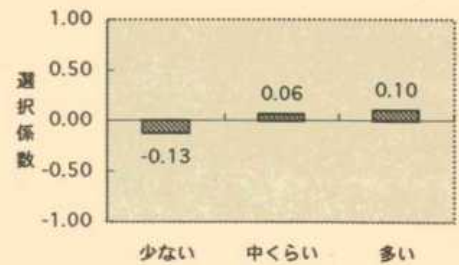
○コウモリ（アブラコウモリ）

杉並区でコウモリを見かけたら、アブラコウモリと思って間違いありません。家の近くにすんでいることからイエコウモリとも呼ばれます。区内では夕暮れ直後に河川上空などをさかんに飛び回る姿がみられます。妙正寺川の上流付近や善福寺公園、神田川流域などで記録されています。みどりの量との関係では、多いところや中くらいのところを選好しているようです。

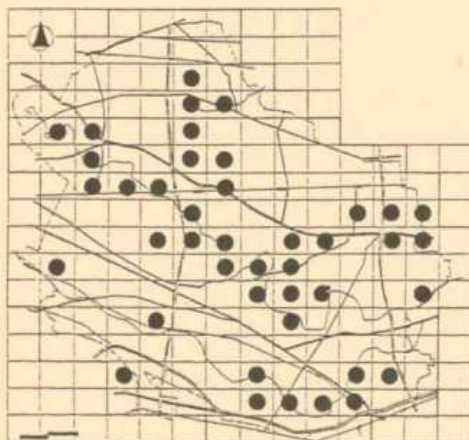
出現メッシュは第2回よりも多くなっていますが、第1回に比べると減少しています。



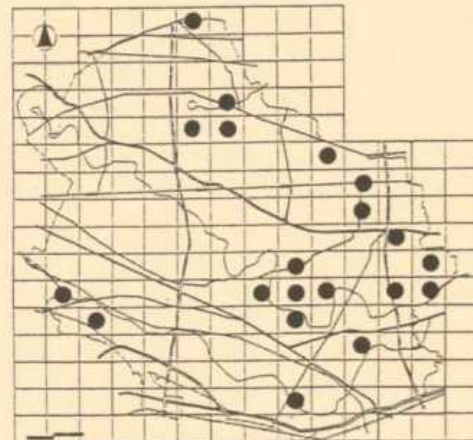
■みどりの量と生き物の分布



みどりの量



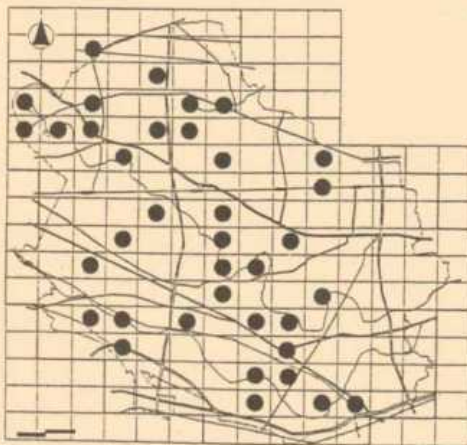
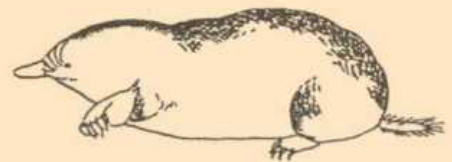
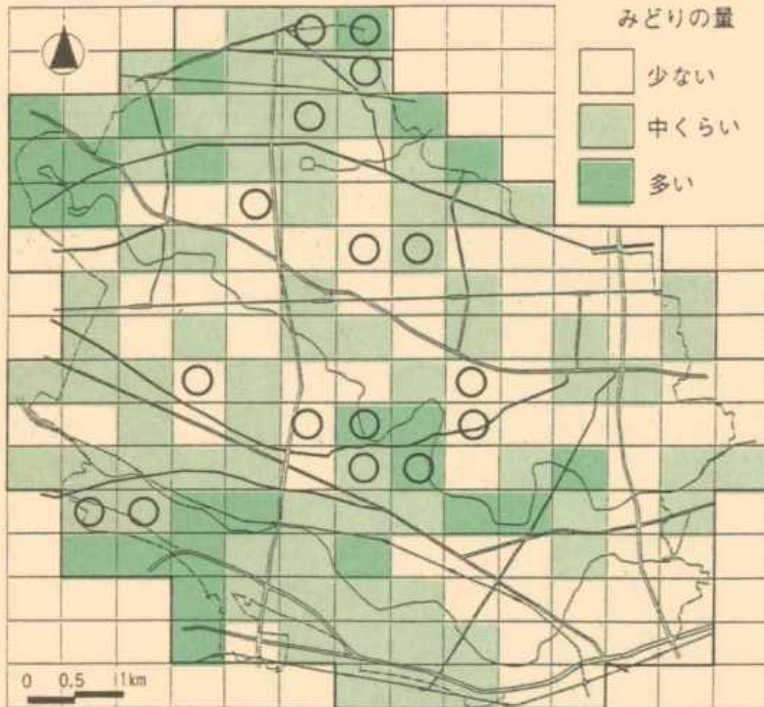
■第1回調査結果



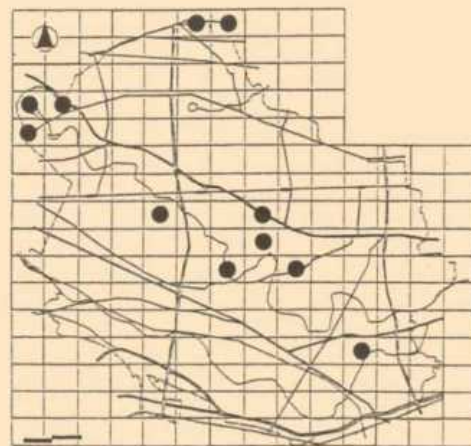
■第2回調査結果

○モグラ

モグラは地中の昆虫やミミズなどを餌にしているため、有機質の多い土壌がなければ生活することができません。第1回と第2回、そして今回の第3回を比べると、安定して見られるのは、善福寺川緑地公園付近のみどりの多い地域だけとなっています。そのほかは各調査回ごとに分布が異なっており、明確な傾向はありませんでした。



■第1回調査結果

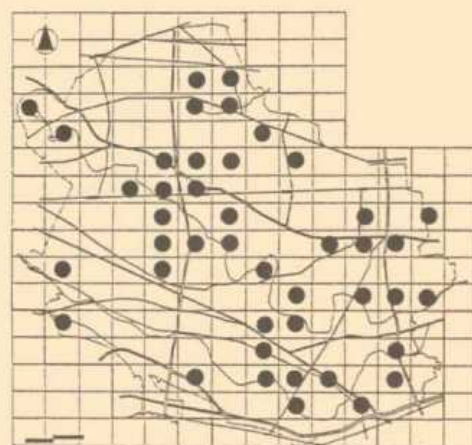
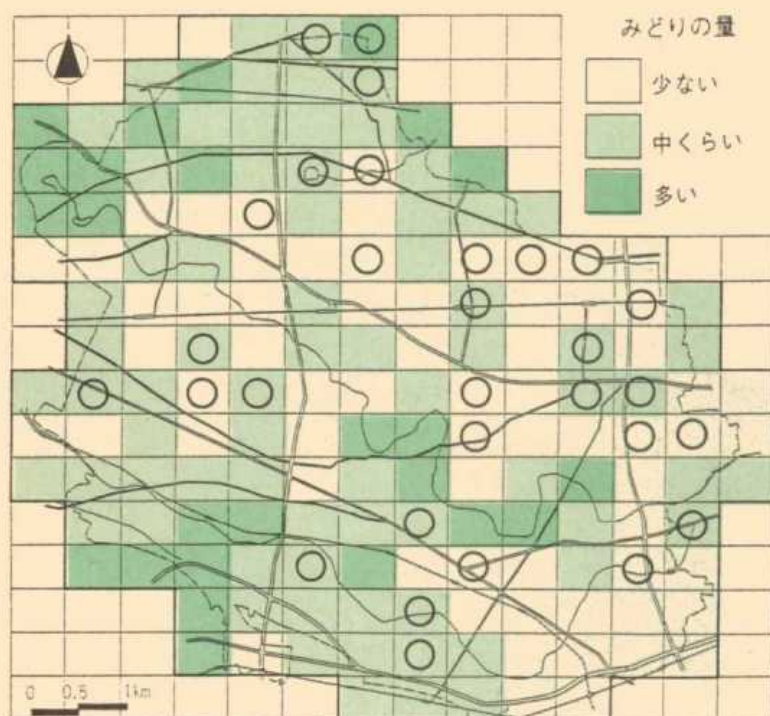


■第2回調査結果

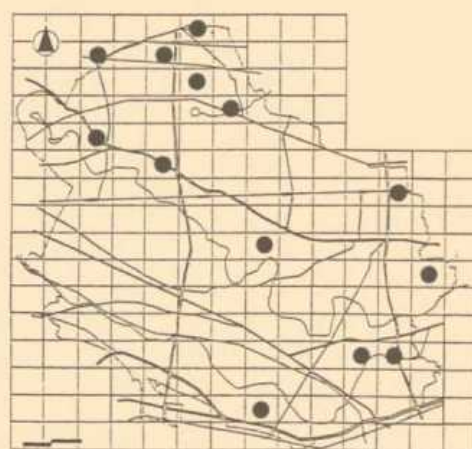
○ネズミ類

杉並区でみられるネズミ類は、ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミなど人家やその周りにすむ種類に限られると思われます。このうちクマネズミは高層ビルなどにも生息し、ドブネズミなどとともに都会に最も適応したネズミといえそうです。ここでは種類を区別せず、ネズミの記録はすべてネズミ類として扱いました。

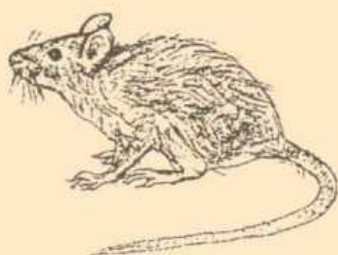
第3回のアンケート結果をみると住宅地域よりも幹線道路や街道沿いの比較的ビルの多いところで確認が多かったようです。傾向としては杉並区の東側地域に多い結果となりました。



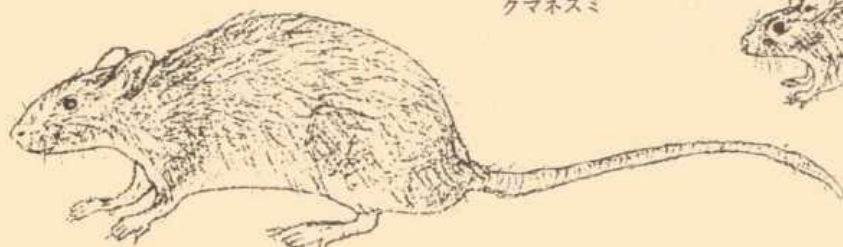
■第1回調査結果



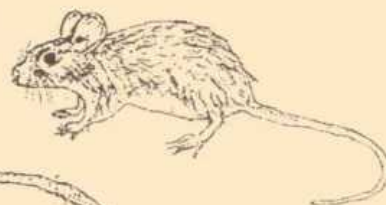
■第2回調査結果



クマネズミ



ドブネズミ

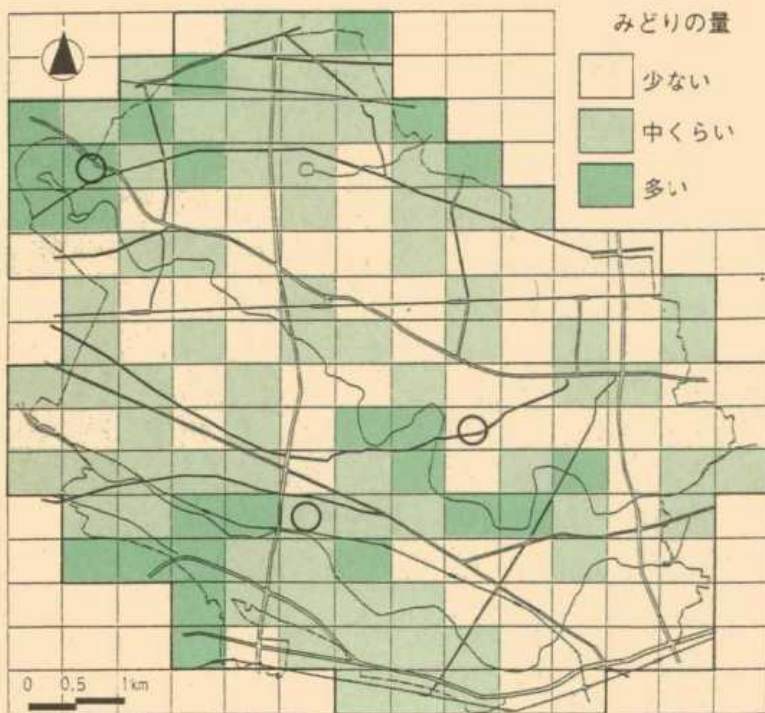


ハツカネズミ

○タヌキ

杉並区におけるタヌキの出没事例は新聞などでも何度か紹介されたこともありますが、第3回アンケートでは井草八幡付近と東田中学校付近、神田川流域の高井戸東付近の3例が記録されています。飼われていたペットが逃げだしたものが、あるいはどこかから来たのかは不明ですが、ペアでの確認例もありました。かつては杉並区でもタヌキをはじめキツネ、シカ、イノシシ、アナグマなど多くのほ乳類がみられ、第2次世界大戦以降（1945～64年に情報の得られたもの）にもノウサギやイタチなどが生息していたようです（杉並区自然環境調査報告書—第2次—より）。

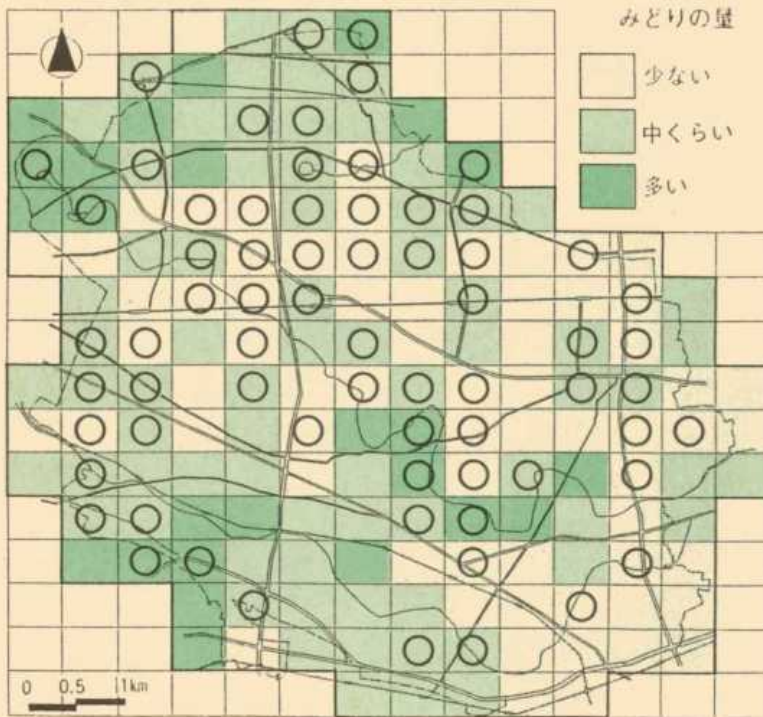
都市化の進んだ現在の杉並区でタヌキが生息し続けていくのは困難と思われませんが、今後も区内に残された緑地を大切にしてください。出現記録から、移動には緑地が点々と残る河川沿いを利用している可能性が考えられます。



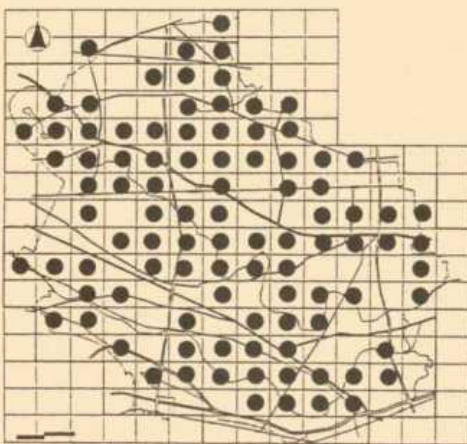
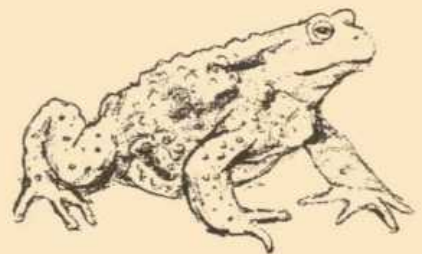
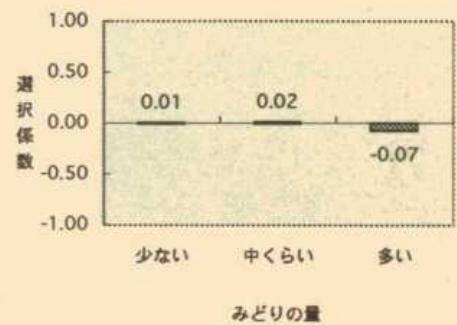
[両生類]

○ヒキガエル

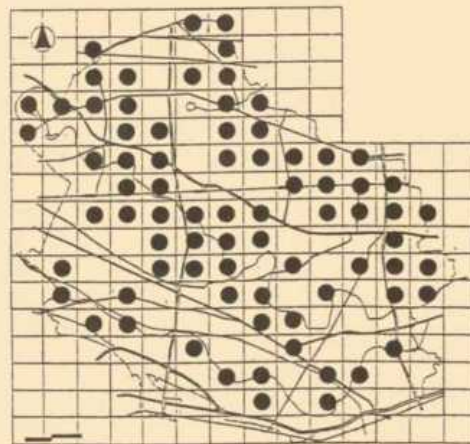
区内に広く分布し「ガマ」とも呼ばれています。しかし、出現記録メッシュは第1回以降徐々に減少している様子がみられます。繁殖のための水域、あるいは餌になる昆虫やミミズなどが減っているのかもしれませんが。みどりの量との関係では少ないあるいは中くらいのところをいづらが選好しているようです。



■みどりの量と生き物の分布



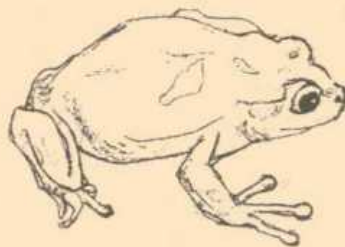
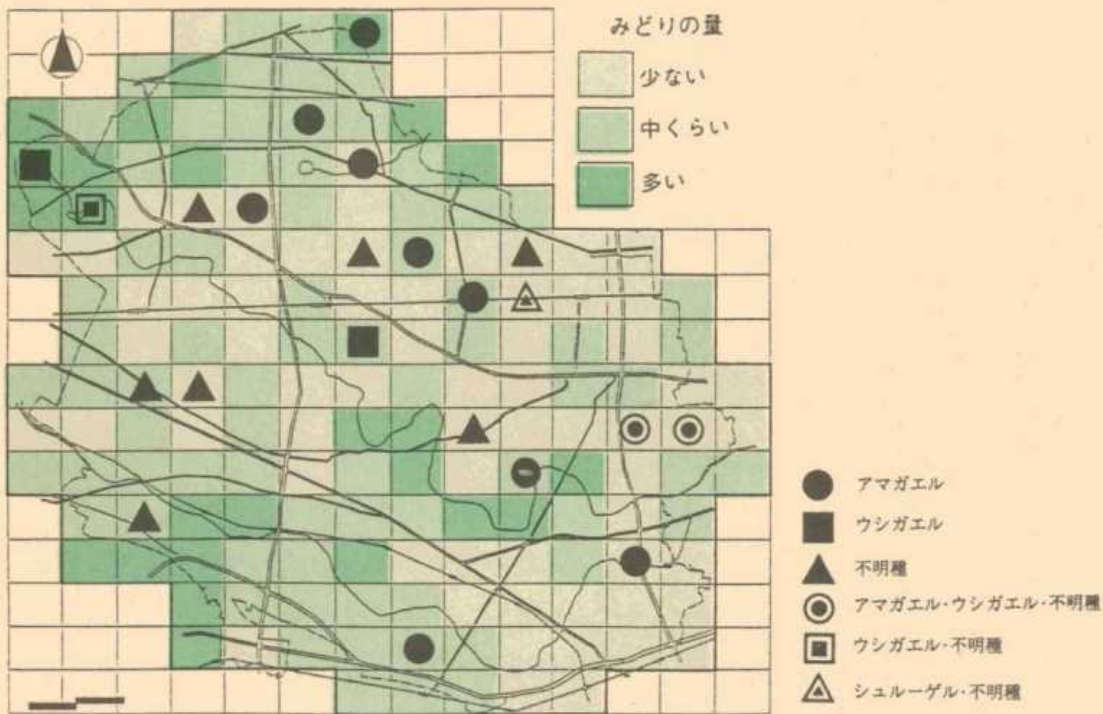
■第1回調査結果



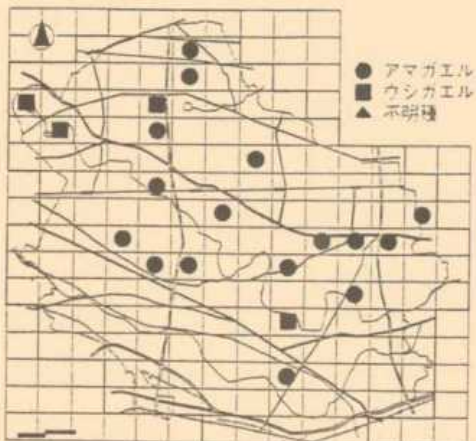
■第2回調査結果

○アマガエル・ウシガエル・シュレーゲルアオガエル

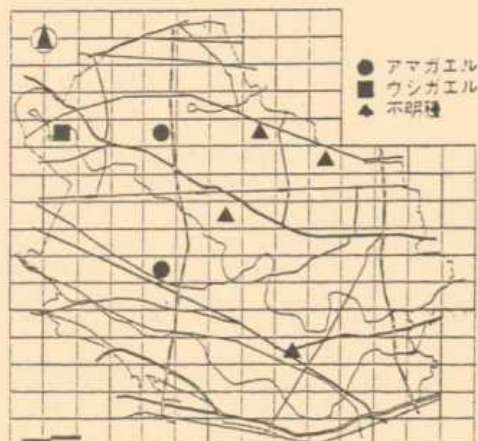
今回のアンケートではヒキガエルのほかアマガエル・ウシガエル・シュレーゲルアオガエルが記録されました。ただし、シュレーゲルアオガエルは本来、水田など湿地環境に生息する種類であることから、今回確認されたものは、ペットとして飼われていた個体の逃げ出しなどによる一時的なものと考えられます。アマガエルは区の南西部で新たに記録されており、ウシガエルは善福寺川流域沿いにみられます。



アマガエル



■第1回調査結果



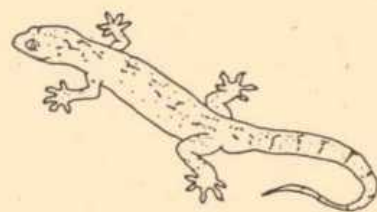
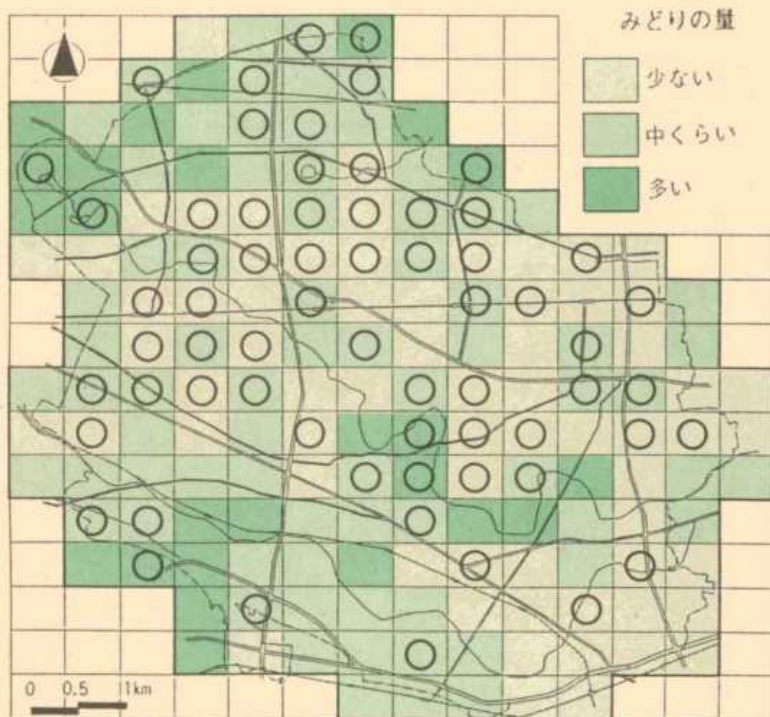
■第2回調査結果

〔は虫類〕

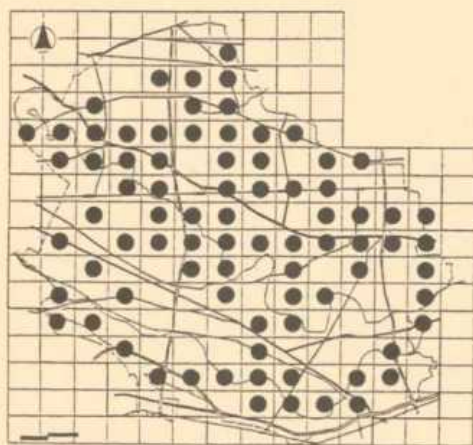
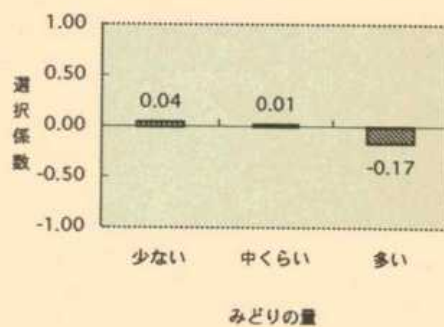
○ヤモリ

住宅やその周りにすんでおり、門灯などに集まった小さな昆虫を食べています。人間が造り出した環境にうまく適応しており、今回の調査ではみどりの量との関係でもみどりの少ないところや中くらいのところを好み、多いところは選ばないという結果になっています。区内に最も多く生息しているは虫類といえます。

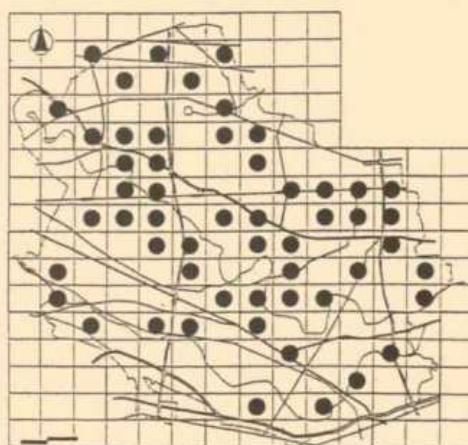
確認メッシュは第2回に比べ多くなっていますが、第1回よりは減少しています。



■みどりの量と生き物の分布



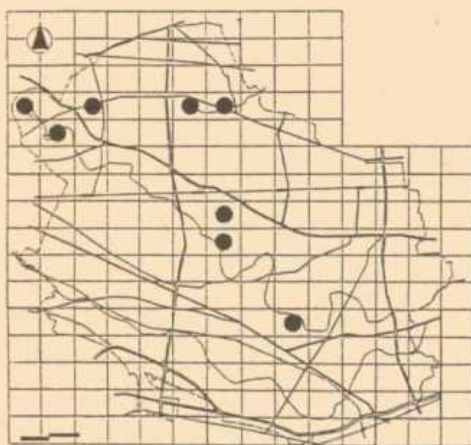
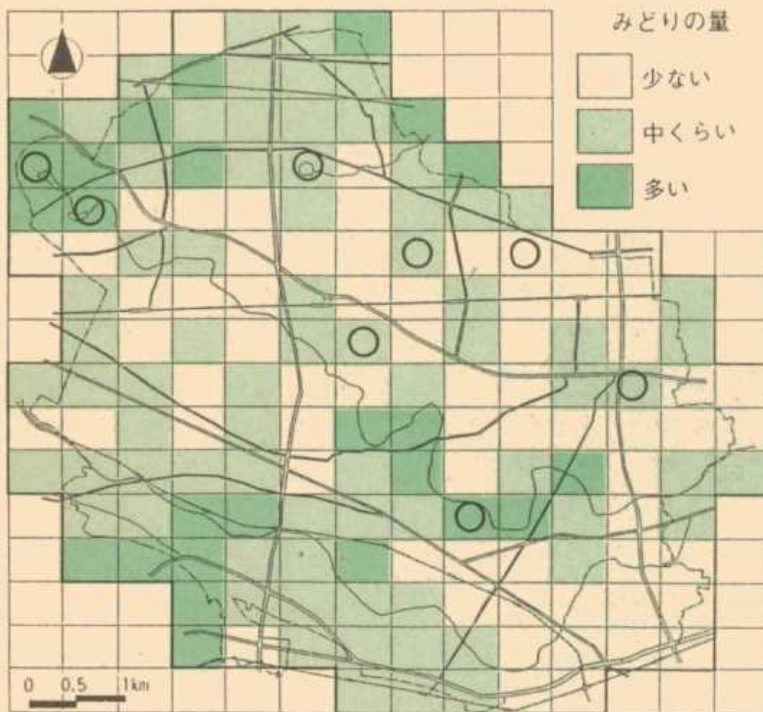
■第1回調査結果



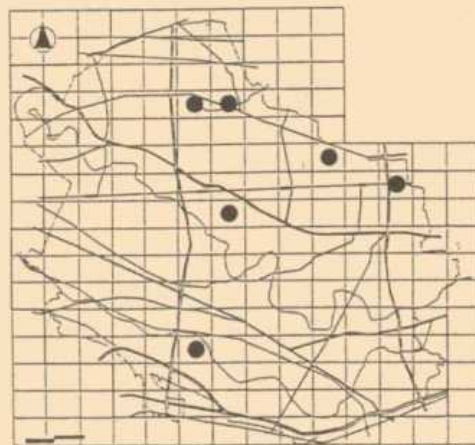
■第2回調査結果

○カメ類

区内で記録されたカメ類の大半は前回と同様、ペットだったものが逃げ出したか、捨てられたもののどちらかと思われます。善福寺公園、和田堀公園などの池で記録されています。



■第1回調査結果



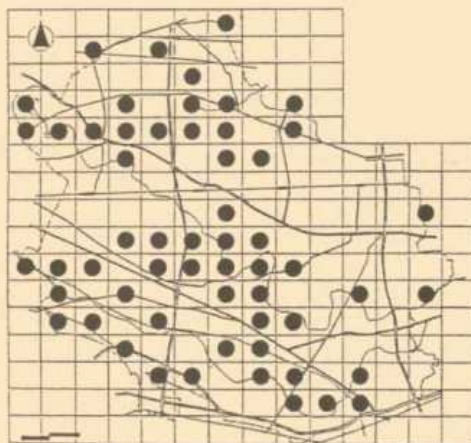
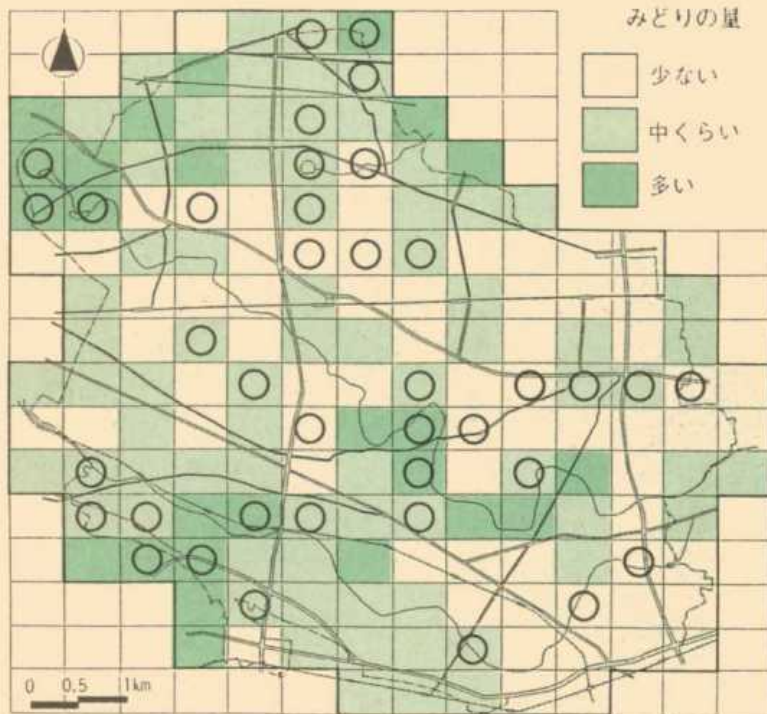
■第2回調査結果



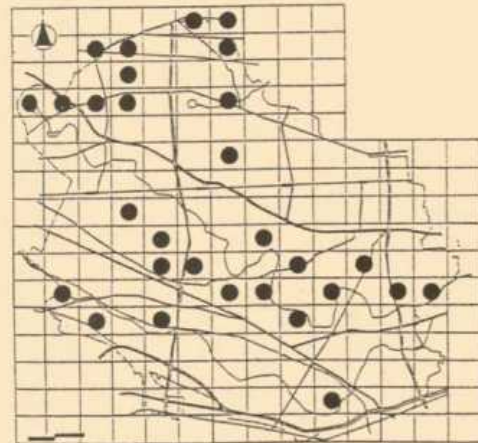
クサガメ

○トカゲ類 (トカゲ・カナヘビ)

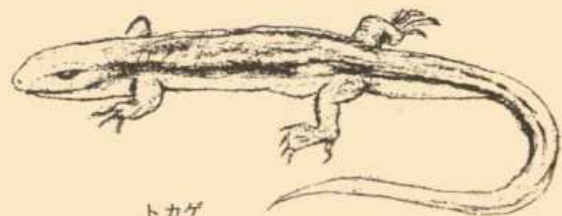
蚕系の森公園付近や、善福寺川沿いなどの緑地帯で確認されています。第1回の調査に比べ、確認メッシュ数がかなり減少しています。



■第1回調査結果



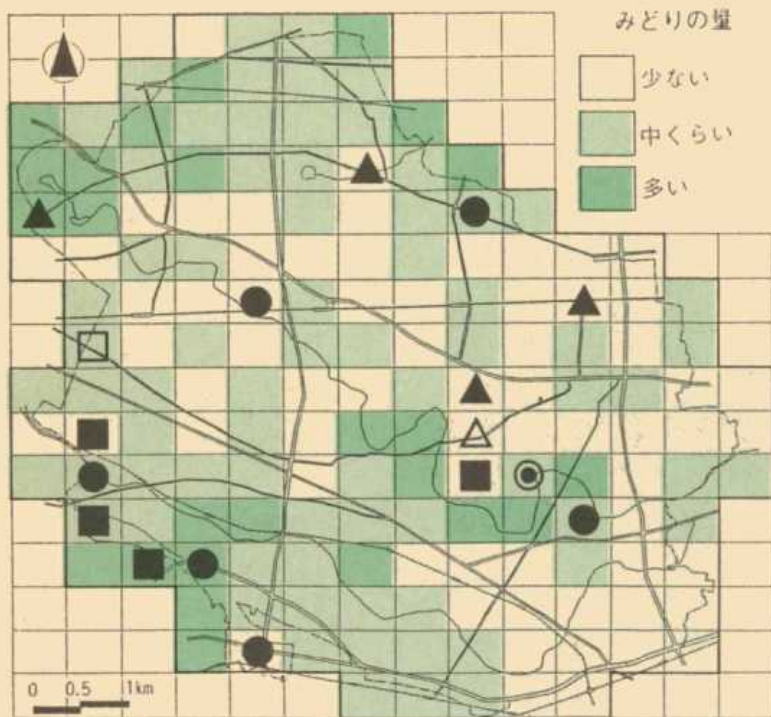
■第2回調査結果



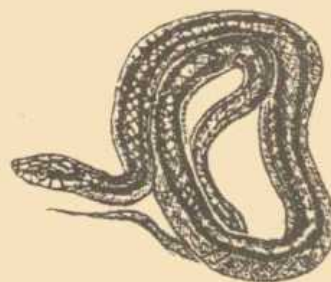
トカゲ

○ヘビ類 (シマヘビ・アオダイショウ・ヤマカガシ)

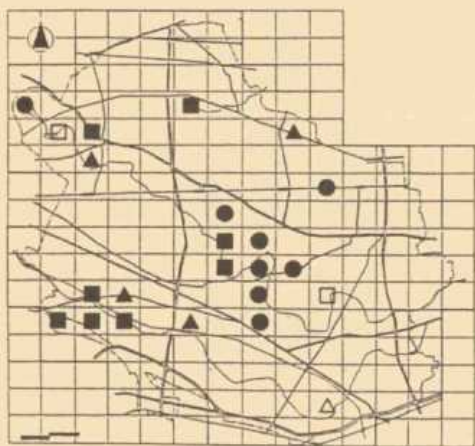
ヘビ類の記録は少なく、今回は善福寺川・神田川・妙正寺川の緑地帯で確認されています。人目につきにくいこと、個体数が少ないことなどによるせいが、確認地点は調査ごとにばらつきがみられます。



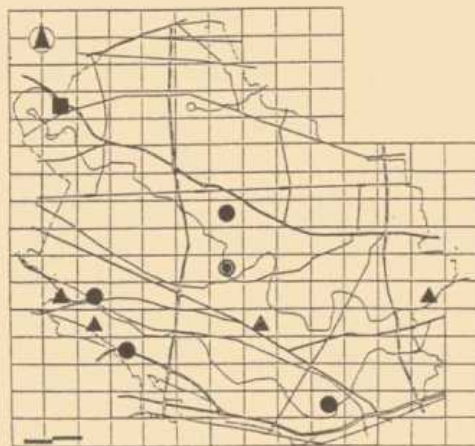
- ▲ アオダイショウ
- シマヘビ
- △ ヤマカガシ
- △ アオダイショウ・ヤマカガシ
- アオダイショウ・シマヘビ
- アオダイショウ・不明種
- 不明種



アオダイショウ



■第1回調査結果



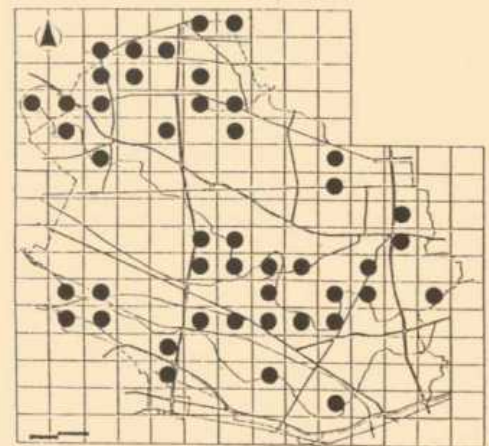
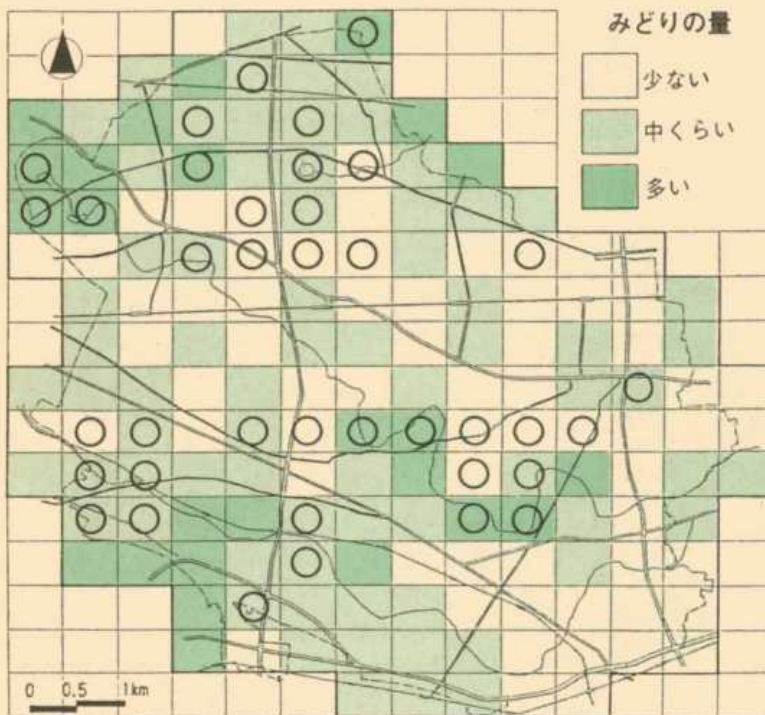
■第2回調査結果

杉並の生き物とみどり（まとめ）

アンケート調査の結果、杉並区の生き物は以前よりも全体に減少している様子がみられました。けれども公園の緑地や神社、お寺、屋敷などの林、川といった環境には比較的多くの種類もみられました。

アンケート調査の結果から前回と同様に、植物の種類数が多かったところ、セミやクモ、冬の鳥など、動物の多かったところを選んで図にまとめてみました。

■植物の多いメッシュ



■第2回アンケート集の結果

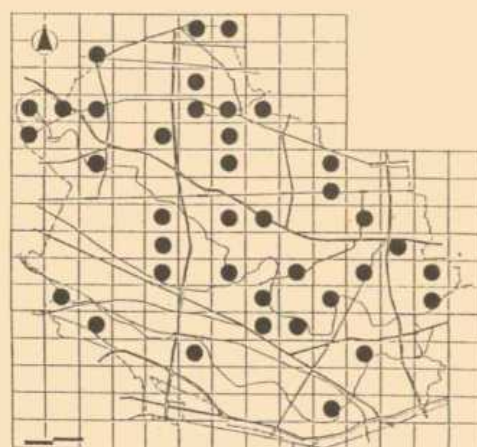
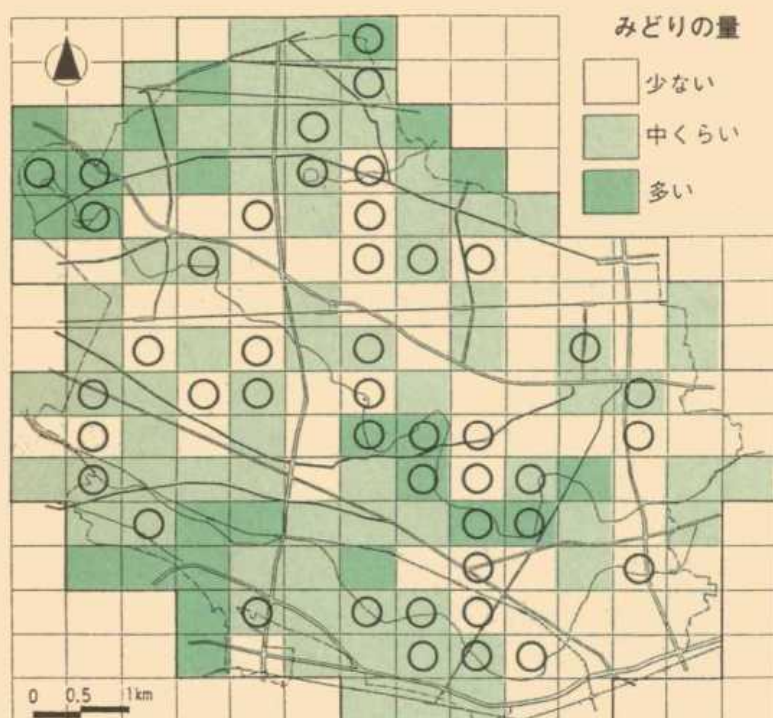
植物が多かったメッシュ数は前回45、今回38と少し減りました。

今回の結果をみると、杉並区を中心を東西に横切るJR中央線沿線の市街地付近には植物が多かったメッシュは無く、比較のみどりの残る区の南北で多くみられます。また、メッシュのまとまっているところをみると、川沿いや池のある公園、屋敷林などのみどりがみられる地域でした。全体的な分布傾向は前回と同様と思われます。

動物が多かったメッシュ数は前回38、今回44と植物とは逆に前回よりも増えました。ただし、区内の広い範囲に動物の多いメッシュが散在することや、善福寺川沿いなどのみどりの多いところあるいは中くらいのところで記録が多かったのは前回と同様です。このほか、地域的にみどりの量が少ないところでも記録の多かったメッシュがあります。その背景には規模は小さくても、大小の樹木、草地、池・川など、多様な環境をもった「質の高い」まとまったみどりが残されていることがうかがえます。

杉並区にすむ生物はこうした限られた「みどり（自然）」の中で生きています。今後もこれらの生き物たちが生育・生息し続けていけるよう、私たちみんなで質の高い「みどり（自然）」を守り育てていきましょう。

■動物の多いメッシュ



■第2回アンケート集の結果

自然環境調査とアンケート調査の詳しい内容・結果の問い合わせは、

杉並区環境部環境保全課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号

電話 03-3312-2111 (代表)

まで、お願いいたします

すぎなみの生き物たち2

登録印刷物番号

09-0167

平成9年度版

平成10年3月 発行

編集・発行

杉並区環境部環境保全課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号

電話 03-3312-2111

・本紙は、古紙配合率100%白色度70%の再生紙を使用しています。